

平成21年度 (2009)
授 業 概 要 (授業シラバス)
徳島大学 大学院 薬科学教育部

第1章 博士前期課程	2
第2章 博士後期課程	37

第1章

博士前期課程

授業概要

● 全専攻系共通カリキュラム科目

生命倫理入門 ... 山野・板倉・太田・北村・久保・佐野・寺尾・中條・水口・松本/1年(後期)...	4
臨床心理学 ... 佐藤・山本・境・三留/1年(前期).....	5
社会医学・疫学・医学統計入門 ... 有澤・伊藤・上野・上村・木原・谷岡・徳村・日野出・森口・楊河/1年(後期).....	6
英語論文作成入門 ... 市原・富田・梶・林・福井・中屋・岡崎・樋口・長篠・片岡/1年(後期)...	7
心身健康と環境ストレス ... 武田.....	8
生命科学の研究手法 ... 羽地.....	9

● 各専攻系間の共通カリキュラム科目

臨床薬理学入門 ... 玉置・滝口・際田・土屋・山内・富田/毎年(後期).....	10
ゲノム創薬特論 ... 伊藤・板倉・玉置・佐野/毎年(前期).....	11
健康食品・漢方 ... 高石・寺尾・武田/毎年(後期).....	12

● 専門科目

薬品物理化学特論 ... 中馬/隔年(後期).....	13
製剤学特論 ... 植野/隔年(前期).....	14
薬品分析学特論 ... 田中・竹内/隔年(前期).....	15
薬化学特論 ... 佐野/隔年(後期).....	16
薬品合成化学特論 ... 大高・根本/隔年(前期).....	17
薬品製造化学特論 ... 落合・宮本/隔年(後期).....	18
生薬学特論 ... 高石・柏田/隔年(後期).....	19
植物環境資源学特論 ... 宍戸・吉田・非常勤講師/隔年(前期).....	20
海洋環境資源学特論 ... 大井/隔年(前期).....	21
環境生物工学特論 ... 伊藤・非常勤講師/隔年(前期).....	22
薬物応答制御学特論 ... 武市・永山・岡/隔年(後期).....	23
臨床薬理学特論 ... 滝口・山崎/隔年(前期).....	24
医薬品情報学特論 ... 山内/隔年(前期).....	25
薬剤学特論 ... 際田・石田/隔年(後期).....	26
薬物代謝学特論 ... 荒木/隔年(前期).....	27

臨床薬剤学特論 ... 水口・荒木・芳地・齋藤・川添・村雲/隔年(後期).....	28
臨床病態学特論 ... 前田・井崎/隔年(後期).....	29
薬物学特論 ... 福井・水口/隔年(前期).....	30
薬学生化学特論 ... 土屋/隔年(前期).....	31
微生物薬品化学特論 ... 新垣/隔年(前期).....	32
衛生化学特論 ... 徳村・田中/隔年(後期).....	33
生物薬品化学特論 ... 篠原/隔年(前期).....	34
臨床薬学実習1 ... 学務委員会・臨床薬学実習運営委員会/2年(前期, 後期).....	35
臨床薬学実習2 ... 学務委員会・臨床薬学実習運営委員会/1年(前期).....	36

生命倫理入門

2 単位 (選択) 1 年 (後期)

Introduction to Biological Ethics

山野 修司・教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 板倉 光夫・教授/疾患ゲノム研究センター, 太田 房雄・教授

北村 清一郎・教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 久保 真一・教授, 佐野 壽昭・教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

寺尾 純二・教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 中條 信義・教授, 水口 和生・教授/医療生命薬学専攻, 松本 耕三・助教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

【授業目的】 バイオサイエンスおよび医療に従事する者は、人権、生命倫理に十分な配慮を行い、個人情報保護、実験動物愛護にも同じく目を向けなければならない。本授業は生命倫理に関わる基本的知識を修得することを目的としている。

【授業概要】 生命倫理学、臨床倫理学、社会倫理、個人情報保護、実験動物愛護などの問題に日頃接することの多い講師が、経験に基づいた講義をオムニバス方式で行う。

【履修上の注意】 講義の一部は e-learning 化しているので、e-learning 学習も出席として取り扱う。

【授業計画】

1. 「ヒトゲノム・遺伝子解析に関する倫理指針」について (担当者: 板倉 光夫)
2. 「実験動物管理と情報処理にまつわる倫理学」 (担当者: 太田 房雄)
3. 「キャンパスハラスメントを通して「医療従事者の倫理」を考える」 (担当者: 北村 清一郎)
4. 「法規や制度に関する基本的考え方—法医学の立場から」 (担当者: 久保 真一)
5. 「大学における人権問題」 (担当者: 佐野 壽昭)
6. 「組織検体取り扱い上の倫理的問題」 (担当者: 佐野 壽昭)
7. 「食品の機能性・安全性の評価と社会倫理」 (担当者: 寺尾 純二)
8. 「尊厳死や安楽死など生命倫理について」 (担当者: 中條 信義)
9. 「遺伝医学の視点」 (担当者: 中堀 豊)
10. 「先天異常, (or 神経疾患, 家族性腫瘍) の遺伝カウンセリング」 (担当者: 中堀 豊)
11. 「動物実験倫理」 (担当者: 松本 耕三)
12. 「臨床治験に関する倫理」 (担当者: 水口 和生)
13. 「ヒト胚の倫理的な地位」 (担当者: 山野 修司)
14. 「臓器移植の倫理的問題(仮題)」 (担当者: 井藤 久雄・予定)
15. (未定)

【成績評価】 出席状況(厳格にする予定)を踏まえ、さらに小テストないし面接試験で評価することを検討している。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=183005>

【連絡先】

⇒ 山野 (088-633-9083, yamano@medsci.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィス
アワー: 火曜日17:00~18:00(保健学科B棟2階))

臨床心理学

2 単位 (選択) 1 年 (前期)

Clinical Psychology

佐藤 健二・教授 / 人間・自然環境研究科, 山本 真由美・教授, 境 泉洋・准教授, 三留 雅人・教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

【授業目的】 臨床心理学の基礎的理論・技法および今日的課題の概説

【授業概要】 心と身体は密接につながっている。したがって「心の問題」の理解と制御を扱う臨床心理学の基礎の習得は、精神医学・心身医学のみならず、ヘルスバイオサイエンスを基盤とする医学、歯学、薬学、栄養学、保健学領域において重要である。そこで、本講義では、臨床心理学の定義、対象、方法(代表的な心理検査、心理療法)について、初学者を考慮して、その基礎と今日的課題を概説する。心理療法に関しては、医学領域などでエビデンスを示す認知行動療法について詳述する。

【履修上の注意】 e-learning 対応。

【到達目標】 臨床心理学の基礎的理論・技法および今日的課題を説明できる

【授業計画】

1. 臨床心理学の定義と対象 (佐藤)
2. 臨床心理学の測定方法 / パーソナリティ, 知能, 発達等の査定法 (山本)
3. 心理療法の基礎 (1) / 精神分析, 分析心理学 (山本)
4. 心理療法の基礎 (2) クライアント中心療法 (山本)
5. 発達障害と特別支援教育の現状と課題 (山本)
6. 行動理論と行動療法 (境)
7. 認知療法 / うつ病 (境)
8. 認知行動療法 / 不安障害 (境)
9. 臨床心理的地域援助の基礎 (境)
10. 臨床心理的地域援助の実際 / ひきこもり (境)
11. 外傷後ストレス障害の認知行動療法 (佐藤)
12. 摂食障害の認知行動療法 (佐藤)
13. 体重減量・糖尿病の認知行動療法 (佐藤)
14. 歯科心身症の認知行動療法 (佐藤)

【成績評価】 毎回の講義でレポートを提出する。このレポートでは、A4一枚以内で、講義概要を簡単にまとめ、それに対する考察・質問などを15分以内で書くことが求められる。e-learningの場合も同様に、毎回のレポート作成・オンライン提出を求める。また、このレポート提出を以て出席とする。2/3以上の出席が必要。

【再試験】 再試験無し

【教科書】 教科書は使用しない。参考書などは、適宜、授業時に紹介する

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=183024>

【連絡先】

⇒ 三留 (mitome@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 三留:水曜日の12:00~13:00(e-mailにより調整可能))

社会医学・疫学・医学統計入門

2 単位 (選択) 1 年 (後期)

Introduction to social medicine, epidemiology and biostatistics

有澤 孝吉・教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

伊藤 博夫・教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 上野 修一・教授, 上村 浩一・講師 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 木原 勝・教授 / 医療生命薬学専攻

谷岡 哲也・教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 徳村 彰・教授 / 医療生命薬学専攻, 日野出 大輔・教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

森口 博基・教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 楊河 宏章・准教授 / 医学部・歯学部附属病院

【授業目的】 社会医学・薬学, 歯学等に関して, 以下のような諸問題を多方面から概説する. 1. 医療の効果の科学的な分析において必要な医学統計学の基本について概説する. 2. 医療における IT の役割と病院マネジメントについて概説する. 3. 精神保健福祉に関する事象を明らかにするための分析手法を概説する. 4. 口腔の健康を保持増進し, 口腔疾患を予防するために必要な疫学・統計の知識を概説する. 5. 医薬品の情報管理と安全対策はどうあるべきかを理解し, その具対策を概説する. 6. 薬害とは何か, どうして発生したか, どうすれば防止できるか等について概説する. 7. 論文作成のための調査デザイン, 統計解析について概説する.

【授業概要】 1) 臨床試験の意義と実際について, 科学的なデザイン, 倫理的に必要な事項, 日本での臨床試験の現状などの面から概説する. 2) 大学病院における IT の活用事例や病院経営におけるマネジメントの方法について概説する. 3) 精神保健福祉における事象の特徴を統計学的に明らかにするための方法論について, 先行研究も踏まえて説明する. 4) 口腔疾患について, 発生要因の追求や疾病対策の効果判定に関する事例をまじえながら教授し, 科学的根拠に基づいた口腔疾患の予防法を概説する. 5) 患者の権利として要求される医療 (医薬品) 情報開示・提供に際しての情報管理の在り方や医薬品の安全対策とリスクマネジメントの具体論等を概説する. 6) 多くの薬害事例について, それらの発生要因や背景を考察し, 薬害を如何に防止するかを考える. 7) データの種類および取り扱い, 統計的検定の意味など, 統計解析の基本について概説する. また, SPSS を用いたデータ解析の実習を行う.

【履修上の注意】 講義は e-learning 化しているので, e-learning 学習も出席として取り扱う.

【到達目標】 社会医学・薬学・歯学等に関して, 授業目的に示した講義内容の理解が深まることを目標にする.

【授業計画】

1. 論文作成のためのデータの基本的な取り扱いと統計解析について (担当者: 上村 浩一)
2. 論文作成のためのデータの基本的な取り扱いと統計解析について (担当者: 上村 浩一)
3. 学位論文作成のための疫学, 統計解析の実際 (SPSS) (担当者: 有澤 孝吉)

4. 学位論文作成のための疫学, 統計解析の実際 (SPSS) (担当者: 有澤 孝吉)
5. 臨床試験の意義と実際について (担当者: 楊河 宏章)
6. 臨床試験の意義と実際について (担当者: 楊河 宏章)
7. 病院における IT の役割 I (担当者: 森口 博基)
8. 病院における IT の役割 II (担当者: 森口 博基)
9. 精神保健福祉に関する問題の統計学的分析手法 (担当者: 上野 修一)
10. 精神保健福祉に関する問題の統計学的分析手法 (担当者: 谷岡 哲也)
11. 齲蝕・歯周病の疫学, 口腔疾患と全身の健康 (担当者: 伊藤 博夫)
12. 齲蝕・歯周病の疫学, 口腔疾患と全身の健康 (担当者: 日野出 大輔)
13. 医薬品の情報管理, 医薬品の安全対策 (担当者: 木原 勝)
14. 医薬品の情報管理, 医薬品の安全対策 (担当者: 木原 勝)
15. 薬害とは何か, なぜ起こるのか, どうすれば薬害を防げるか (担当者: 徳村 彰)
16. 薬害とは何か, なぜ起こるのか, どうすれば薬害を防げるか (担当者: 徳村 彰)

【成績評価】 講義中に提示した課題についてレポートを提出する. 各講師の先生の出席点・評点を総合的に考慮して決定する.

【再試験】 再試験は基本的には行わない.

【教科書】 各講師の指定した教材を使用する.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=182885>

【連絡先】

⇒ 有澤 (088-633-7071, arisawa@basic.med.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: e-mailにてアポイントメントを取り, 面談してください.)

【備考】 講師の先生によって講義をする場所が異なるので注意すること.

英語論文作成入門

2 単位 (選択) 1 年 (後期)

Introduction to How to Write Up Scientific Manuscript in English

市原明・肩書, 富田修平・教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

梶龍児・教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 林良夫・教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 福井清・教授/疾患酵素学研究センター

中屋豊・教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 岡崎拓・教授/疾患ゲノム研究センター, 樋口富彦・教授/医療生命薬学専攻, 長篠博文・教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

片岡英樹・非常勤講師

【授業目的】 21世紀に医学, 歯学, 薬学, 栄養学, 保健学の各分野で活躍する人材は英語が堪能であることが要求される。本授業ではこれらの領域で用いられる独特の英語表現法に関わる基本的知識を修得することを目的とする。

【授業概要】 研究成果を国際的な学術雑誌に発表したり, 海外の学会やシンポジウムで発表や講演をしたりすることは, 研究者養成を目的とする大学院教育において必須の履修目標である。そこで, 本授業では医学英語論文, 用紙の作成方法について系統的な講義をビデオ並びにマルチメディア教材等を積極的に活用しながら行う。更に, 医科学用英語の聴き取り及び英語による討論の訓練を行い, 発表技術の向上を目指す。

【履修上の注意】 1) 授業は後期のみに関講される。時間帯は原則的に火曜日の午後であるが, 講師の事情等により変更されることがある。2) 講義の一部は e-learning 化されているので, e-learning 学習も出席として取り扱う。3) 20分以上の遅刻は出席と見なさない。

【授業計画】

1. 生物医学雑誌投稿に要求される条件 (I) (担当者: 福井 清)
2. 生物医学雑誌投稿に要求される条件について (II) (担当者: 福井 清)
3. 研究, 論文, 学会発表の進め方 (I) (担当者: 市原 明)
4. 研究, 論文, 学会発表の進め方 (II) (担当者: 市原 明)
5. 国際派研究者のためのテクニカル・ライティング (担当者: 片岡 英樹)
6. 論文投稿申込書, 経歴書, 研究計画書, 履歴書などの書き方 (I) (担当者: 長篠 博文)
7. 論文投稿申込書, 経歴書, 研究計画書, 履歴書などの書き方 (II) (担当者: 長篠 博文)
8. 学会口演要旨作成上の留意点について実例をまじえて (担当者: 富田 修平)
9. 論文作成に役立つコンピュータの利用法—実例を示した結果, 考察の書き方— (担当者: 中屋 豊)
10. 英語による PowerPoint presentation についての要点 (担当者: 梶 龍児)
11. 英語論文の特性と日本語論文との比較 (担当者: 林 良夫)
12. 医学英語 15 のポイント (I) (担当者: 樋口 富彦)
13. 医学英語 15 のポイント (II) (担当者: 樋口 富彦)
14. 口頭による英語発表と短報の書き方に関する基本を講義する I (担当者: 岡崎 拓)
15. 口頭による英語発表と短報の書き方に関する基本を講義する II (担当者: 岡崎 拓)

【成績評価】 講義への出席, 随時の試験, 受講態度を総合して行う。2/3 以上の出席がなければ不合格とする。再試験はない。

【教科書】 なし

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=183026>

心身健康と環境ストレス

2 単位

Psychosomatic health and environmental stress

武田 英二・教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

【授業目的】 心身の健康におよぼす社会や家庭をはじめとする日常生活で生ずるストレスの影響について学習させる。心身の発育・発達を制御する栄養や睡眠、ストレスによる遺伝子発現調節をはじめとするシステム生物学的解析、健康者のストレス応答および病的ストレス応答と子どもの成長、等に関する知識、活用法、評価技術、等を学習し理解する。

【授業概要】 種々の環境ストレスが子どもの身体および精神の発育・発達に影響をおよぼすことが明らかになっている。これらに関して、システム生物学、臨床神経学、栄養科学、ストレスゲノミクス、遺伝学、精神医学等の専門分野で得られている最新情報や評価方法を教授する。それぞれの専門に基づいた講義をオムニバス方式で行い健康増進法および疾患治療法を考えさせることによって学生の潜在能力を活性化する。

【キーワード】 心身健康、環境、ストレス

【授業計画】

1. システム生物学の基礎 (担当者: 岡崎紀明)
2. システム生物学の展開 (担当者: 岡崎紀明)
3. 臨床神経学 (担当者: 梶 龍児)
4. 生体のストレス応答の仕組み (担当者: 六反 一仁)
5. ストレスゲノミクス (担当者: 六反 一仁)
6. 時計遺伝子と代謝機構 (担当者: 勢井 宏義)
7. 脳内脂質代謝機構と行動・睡眠調節 (担当者: 勢井 宏義)
8. 栄養と脳変性疾患 (担当者: 後藤 恵)
9. 神経精神症状と脳回路異常 (担当者: 後藤 恵)
10. 医薬・食品化合物の構造と活性・機能の相関 (担当者: 中馬 寛)
11. プリオンの神経ストレス (担当者: 坂口 末廣)
12. 日本食とストレス (担当者: 武田 英二)
13. 不安とうつ病 (担当者: 大森 哲郎)
14. ヒト疾患の遺伝学 (担当者: 田宮 元)
15. ヒト疾患のゲノム研究 (担当者: 田宮 元)
16. レポート (担当者: 武田 英二)

【成績評価】 受験資格 (三分の二以上の出席など) を満たした者のみを対象としたレポート。

【再試験】 再試験無し

【参考書】 授業時に適宜、紹介する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185446>

生命科学の研究手法

2 単位

羽地 達次・教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

【授業目的】 大学院に進学した直後の院生に生命科学に関する基礎的な実験方法を理解させる。

【授業概要】 実験動物の取り扱い方、細胞と器官の培養方法とその応用、蛋白質の取り扱い方とその解析方法、遺伝子解析の方法とその応用、抗体を用いた研究方法とその蛋白質、免疫組織細胞化学に対する応用、数理モデルによる生体機能発現機構の解明等生命科学の基礎的な研究技法を講義する。

【キーワード】 生命科学、実験手法

【履修上の注意】 受講生は必ず出席すること。

【到達目標】 現在行われている生命科学研究方法の基礎を大学院進学直後に理解し、研究生活にスムーズに入れるようにする。

【授業計画】

1. 大学院に入学直後に現在用いられている研究手法を集中的に講義する。
 1. 授業ガイダンスと生命科学の研究手法総論 (羽地, 研究部長)
 2. 実験動物を利用した研究 (松本)
 3. 細胞と器官の培養 (羽地)
 4. (宮本)
 5. 蛋白研究 1(福井清)
 6. 蛋白研究 2(藤原)
 7. 抗体を用いた生化学的研究方法 (二川, 山本)
 8. 抗体を用いた研究の臨床応用 (中屋)
 9. 免疫学研究の基礎 (安友)
 10. 免疫学研究の最近の進歩 (安友)
 11. 遺伝子解析 1(福井裕)
 12. 遺伝子解析 2(伊藤)
 13. 遺伝子解析 3(高濱)
 14. 遺伝子解析 4(高濱)
 15. 数理モデルによる生命機能の解析 (吉永)

【成績評価】 出席状況, 受講態度, レポート等により総合的に判定する。

【再試験】 しない

【教科書】 指定しないが, 講義の都度プリント等資料を配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185447>

【連絡先】

⇒ 羽地達次 メールアドレス:tat-hane@dent.tokushima-u.ac.jp

臨床薬理学入門

2 単位 (選択) 毎年 (後期)

Introduction to Clinical Pharmacology

玉置 俊晃(授業責任者)・教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 滝口 祥令・教授 / 医療生命薬学専攻

際田 弘志・教授 / 医療生命薬学専攻, 土屋 浩一郎・教授 / 医療生命薬学専攻, 山内 あい子・准教授 / 医療生命薬学専攻, 富田 修平・准教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

【授業目的】 薬の効果に個人差が生じる要因を理解し, 有効で安全な医薬品の適正な使用方法に関する基本事項を身につける。

【授業概要】 人々の病気の治療・予防に多大な役割を担っている薬物をより有効に, かつ安全に使うために, 薬物の人体における作用と生体内動態に影響を及ぼす諸因子について解説し, モデル式を利用した科学的評価に基づく薬物療法について講義する。また, 具体的な疾患に対する薬物療法の現状と問題点や薬害についても解説する。

【履修上の注意】 講義の一部は e-learning 化する予定である。e-learning 学習も出席として取り扱う。

【授業計画】

1. 授業ガイダンス+臨床薬理学序論 (担当: 玉置 俊晃)
2. 薬物動態の原理 (担当: 富田 修平)
3. 薬物の体内動態 (担当: 富田 修平)
4. 薬物のバイオアベイラビリティ (担当: 際田 弘志)
5. TDM の実践 (担当: 滝口 祥令)
6. P450 と薬物相互作用 (担当: 富田 修平)
7. 薬物相互作用 (担当: 玉置 俊晃)
8. 腹痛と治療薬 (担当: 玉置 俊晃)
9. 高血圧治療薬 (担当: 玉置 俊晃)
10. かぜ薬 (担当: 玉置 俊晃)
11. 抗酸化薬 (担当: 土屋 浩一郎)
12. 薬物と健康食品 (担当: 玉置 俊晃)
13. 薬害 (担当: 玉置 俊晃)
14. 妊婦・授乳婦と医薬品情報 (担当: 山内 あい子)
15. 臨床試験と生命倫理 (担当: 玉置 俊晃)

【成績評価】 出席状況と小テストまたはレポート等により評価する。12 回以上の出席が必要。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=183025>

【連絡先】

- ⇒ 玉置 (088-633-7061, tamaki@basic.med.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 面談希望教員に e-mail にて時間調節の上, 面談して下さい。)
- ⇒ 滝口 (088-633-7466, takiguti@ph.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 面談希望教員に e-mail にて時間調節の上, 面談して下さい。)

⇒ 際田 (088-633-7259, hkiwada@ph.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 面談希望教員に e-mail にて時間調節の上, 面談して下さい。)

⇒ 土屋 (薬物機能制御学講座, 088-633-7250, tsuchiya@ph.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 面談希望教員に e-mail にて時間調節の上, 面談して下さい。)

⇒ 山内 (088-633-7266, aiko@ph.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 面談希望教員に e-mail にて時間調節の上, 面談して下さい。)

⇒ 富田 (207, 088-633-6071, tomita@basic.med.tokushima-u.ac.jp) MAIL

ゲノム創薬特論

2 単位 (選択) 毎年 (前期)

Genomic Drug Discovery

伊藤 孝司(授業責任者)・教授/創薬科学専攻, 板倉 光夫・教授/疾患ゲノム研究センター, 玉置 俊晃・教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

佐野 茂樹・教授/創薬科学専攻

【授業目的】ゲノム創薬の考え方と実際について学ぶ。

【授業概要】マイクロサテライトと単一ヌクレオチド多型を含ゲノム塩基配列に関する多型情報を用い, 単一遺伝子の原因遺伝子と多遺伝子疾患の疾患感受性遺伝子とその多型を明らかに出来る。またゲノム情報と疾患メタボロームとの相関, および疾患治療の分子標的の構造と機能に関する情報に基づく「ゲノム創薬」と創薬の歴史や創薬の実際について講義する。

【履修上の注意】講義の一部は e-learning 化を予定しているのので, e-learning 学習も出席として取り扱う。

【授業計画】

1. 授業ガイダンス+創薬の歴史 (担当者: 玉置 俊晃)
2. ゲノム情報の現状 (担当者: 板倉 光夫)
3. 一遺伝子疾患の原因遺伝子の探索 (担当者: 板倉光夫)
4. 疾患モデル動物を用いた疾患感受性遺伝子の探索 (担当者: 板倉 光夫)
5. 患者を対象とする解析とゲノム創薬 (担当者: 板倉 光夫)
6. グライコサイエンスの基礎と現状 (担当者: 伊藤 孝司)
7. グライコバイオロジーと疾患 (担当者: 伊藤 孝司)
8. グライコサイエンスと創薬(トピックス I) (担当者: 伊藤 孝司)
9. グライコサイエンスと創薬(トピックス II) (担当者: 伊藤 孝司)
10. 有機化学を基盤とする創薬化学の概要 (担当者: 佐野 茂樹)
11. 創薬に役立つクスリの化学, 常用医薬品の分子構造特性 (担当者: 佐野 茂樹)
12. ポストゲノム時代の創薬研究 (1) (担当者: 佐野 茂樹)
13. ポストゲノム時代の創薬研究 (2) (担当者: 佐野 茂樹)
14. 新薬の開発 (担当者: 玉置 俊晃)
15. 臨床試験 (担当者: 玉置 俊晃)

【成績評価】出席により評価する。12 回以上出席すること。欠席する場合は, 担当教員が指定する課題についてレポートを提出することにより出席と認定する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=182890>

【連絡先】

⇒ 伊藤 (薬科学教育部附属医薬創製教育研究センター 2 階・創薬生命工学分野教授室, 088-633-7290, kitoh@ph.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: E-mailで質問等を受付け, 必要があれば面談する。)

⇒ 板倉 (306, 088-633-9454, itakura@genome.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: E-mailで質問等を受付け, 必要があれば面談する。)

⇒ 玉置 (088-633-7061, tamaki@basic.med.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: E-mailで質問等を受付け, 必要があれば面談する。)

⇒ 佐野 (薬学部本館 6 階東, 088-633-7273, ssano@ph.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: E-mailで質問等を受付け, 必要があれば面談する。)

健康食品・漢方

Health food and herbal medicine

2 単位 (選択) 毎年 (後期)

高石 喜久(授業責任者)・教授 / 創薬科学専攻, 寺尾 純二・教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

武田 英二・教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

【授業目的】 健康食品・漢方・天然薬物に関する正しい知識と、適正な使用方法に関する基本事項を身につける。

【授業概要】 人々の病気の治療・予防に大きな役割を担っている健康食品・漢方薬・天然薬物をより有効に、かつ安全に使うために、健康食品の法律と制度、現状と問題点、健康食品の素材と機能成分、栄養補助食品、特定保健用食品、漢方薬とサプリメント、天然薬物と生薬、天然物化学研究と医薬品開発等について講義する。

【履修上の注意】 事情により講義に出席が困難な人(社会人大学院生、就職活動等)は担当教員にメールで連絡下さい。場合に依りましては考慮します。

【授業計画】

1. 天然薬物・生薬 (担当者: 高石 喜久)
2. 漢方薬とサプリメント (担当者: 高石 喜久)
3. 天然薬物からシード化合物の探索研究 (担当者: 高石 喜久)
4. 天然物化学研究と医薬品開発 (担当者: 高石 喜久)
5. 総合討論「漢方・天然薬物について」 (担当者: 高石 喜久)
6. 健康食品の法律と制度 (担当者: 寺尾 純二)
7. 栄養学から見た健康食品の現状と問題点 (担当者: 寺尾 純二)
8. 健康食品の素材と機能成分 (1) (担当者: 寺尾 純二)
9. 健康食品の素材と機能成分 (2) (担当者: 寺尾 純二)
10. 総合演習 (担当者: 寺尾 純二)
11. 栄養補助食品 / サプリメントとしてのビタミン類, ミネラル類 (担当者: 武田 英二)
12. 特定保健用食品 / プロバイオティクス, プレバイオティクス (担当者: 武田 英二)
13. 特定保健用食品 / 脂質代謝調節食品 (担当者: 武田 英二)
14. 特定保健用食品 / 骨, 血圧, 血糖調節食品 (担当者: 武田 英二)
15. 総合討論 (担当者: 武田 英二)

【成績評価】 出席状況とレポート等により評価する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=182854>

【連絡先】

⇒ 高石 (088-633-7275, takaishi@ph.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 木曜日12:00—13:00又はメールにより時間調整。他の教員についてもメールにて時間調整の上、面談して下さい。)

薬品物理化学特論**Physical Chemistry**

2 単位 隔年 (後期)

中馬 寛 (授業責任者)・教授 / 創薬科学専攻

【授業目的】 学部 4 年次までの物理化学等の基礎知識を前提に、生体関連分子の機能・活性・構造の電子・分子レベルからの解析方法に基づいた論理的創薬の考え方を習得する。また論理的創薬における最新の研究・開発の動向を紹介する。

【授業概要】 論理的創薬に必要な理論化学の基礎知識の習得、応用および最新の論理的創薬の実例の紹介をする。

【履修上の注意】 講義の一部は受講生の発表形式で行う。e-learning も今後取り扱う予定である。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 分子科学計算概説
3. 分子力学法
4. 分子動力学法
5. 分子軌道法 (1)
6. 分子軌道法 (2)
7. 分子軌道法 (3)
8. 分子科学計算による創薬へ論理的アプローチの実例 (1)
9. 分子科学計算による創薬へ論理的アプローチの実例 (2)
10. 分子科学計算による創薬へ論理的アプローチの実例 (3)
11. 定量的構造活性相関解析概説 (レポート)
12. 創薬へ定量的構造活性相関解析の応用の実例 (1)
13. 創薬へ定量的構造活性相関解析の応用の実例 (2)
14. 創薬へ定量的構造活性相関解析の応用の実例 (3)
15. 講義のまとめ
16. 定期試験 (最終レポート)

【成績評価】 発表内容およびレポート等により評価する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=182869>

【連絡先】

⇒ 中馬 (088-633-7257, hchuman@ph.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 講義終了後1時間ほど (e-mail により時間調節を適宜行う場合もあります))

【備考】

- ◇ 参考文献等は随時指示、また必要なプリントを随時配付する。
- ◇ 平成 21 年度後期開講

製剤学特論

Physical Pharmacy

2 単位 隔年 (前期)

植野 哲・准教授 / 創薬科学専攻

【授業目的】 前半では、コロイド・界面化学、微小分散系及び分子間相互作用から見た製剤学の基本事項を修得する。

後半では、細胞内への高分子薬物の導入に関する基本事項を修得する。

【授業概要】 前半: 生体の軟組織は蛋白質等の生体高分子と低分子との複合体であり、硬組織はヒドロキシアパタイトと低分子及び高分子との複合材料である。薬物送達系もゲル構造をとる高分子マトリックスを利用した高分子と低分子の複合系とみなせる。このような背景を意識して広い視野に立ち、微小分散系、高分子/低分子及び有機化合物/無機化合物複合体形成と相互作用について、製剤学の見地から解説する。

後半: 遺伝子治療の進展と共に細胞内へ遺伝子や、たんぱく質といった高分子物質 (高分子薬物) を導入し疾病の治療を行う事が検討され、実際に行われている。細胞内への高分子薬物の導入にあたって薬物の生体膜透過が非常に重要なステップとなっている。この高分子薬物の生体膜透過について 1) 遺伝子治療 2) タンパク質の様な遺伝子以外的高分子薬物の場合について解説する。

【キーワード】 超分子複合体, 自己組織化, 粒子分散系, ナノ材料, 膜透過

【履修上の注意】 毎回出席を取ります。遅刻せぬよう、欠席なきように願います。

【授業計画】

1. 有機・無機ナノ材料の展望 1
2. 有機・無機ナノ材料の展望 2
3. 粒子分散系によるナノコンポジットの創製 1
4. 粒子分散系によるナノコンポジットの創製 2
5. 自己組織化による有機無機超分子複合体の創製 1
6. 自己組織化による有機無機超分子複合体の創製 2
7. 微小分散系 (微小液体粒子, 微小固体粒子, 微小気泡) の製剤学への応用 1
8. 微小分散系 (微小液体粒子, 微小固体粒子, 微小気泡) の製剤学への応用 2
9. ウイルス性ベクターによる遺伝子治療 1
10. ウイルス性ベクターによる遺伝子治療 2
11. 非ウイルス性ベクターによる遺伝子治療 1
12. 非ウイルス性ベクターによる遺伝子治療 2
13. エンドサイトーシス経路による高分子薬物の生体膜透過
14. 非エンドサイトーシス経路による高分子薬物の生体膜透過 1
15. 非エンドサイトーシス経路による高分子薬物の生体膜透過 2

【成績評価】 出席と課題レポートの内容によって評価します。

【教科書】 講義は配布資料に基づいて行います。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=182876>

【連絡先】

⇒ 植野 (088-633-7268, sueno@ph.tokushima-u.ac.jp) [MAIL](#)

【備考】 平成 22 年度開講

薬品分析学特論**Advanced Analytical Chemistry**

2 単位 隔年 (前期)

田中 秀治(授業責任者)・教授 / 創薬科学専攻, 竹内 政樹・准教授 / 創薬科学専攻

【授業目的】 薬物や環境汚染物質などの濃度を各種分析装置を用いて自動連続測定(自動分析法, フロー分析法)するための基礎と応用について講義する。

【授業概要】 前半は, コンピュータを用いて制御と計測を行うために必要な基礎知識, およびフロー分析法の基礎と応用について講義する。後半は, 環境汚染物質が人体・自然環境に及ぼす影響と最新の分析技術について講義する。

【キーワード】 分析科学, 自動化分析, フロー分析, 環境汚染物質

【履修上の注意】 本年度は e-learning 化を行う予定はない。

【授業計画】

1. 分析法の自動化 (担当者: 田中秀治)
2. フローインジェクション分析法とその関連法 (担当者: 田中秀治)
3. フロー分析法の応用 (担当者: 田中秀治)
4. デジタル信号処理 (担当者: 田中秀治)
5. 周波数解析 (担当者: 田中秀治)
6. フィードバック制御フローレイショメトリー (担当者: 田中秀治)
7. 振幅変調多重化フロー分析法 (担当者: 田中秀治)
8. 大気分析 1) ガス状汚染物質 (担当者: 竹内政樹)
9. 大気分析 2) 粒子状汚染物質 (担当者: 竹内政樹)
10. 屋内空気分析 (担当者: 竹内政樹)
11. 呼気分析 (担当者: 竹内政樹)
12. 環境汚染物質 1) 二酸化炭素 (担当者: 竹内政樹)
13. 環境汚染物質 2) 過塩素酸 (担当者: 竹内政樹)
14. 環境汚染物質 3) ヒ素 (担当者: 竹内政樹)
15. 総括 (担当者: 田中秀治, 竹内政樹)
16. 試験 (担当者: 田中秀治, 竹内政樹)

【成績評価】 出席状況と試験により評価する。

【教科書】 指定しない

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=182850>

【連絡先】

⇒ 田中 (教授室, 088-633-7285, htanaka@ph.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金の8:30~ 12:00, 13:00~ 17:30)

⇒ 竹内 (088-633-7286, takeuchi@ph.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金の8:30~ 12:00, 13:00~ 17:30)

【備考】

- ◇ 質問は電子メールでも受け付けるが, 件名に「薬品分析学特論」と記すこと。
- ◇ 平成 22 年度開講

薬化学特論**Molecular Medicinal Chemistry**

2 単位 隔年 (後期)

佐野 茂樹 (授業責任者)・教授 / 創薬科学専攻

【授業目的】 薬学系独自の特色ある創造性豊かな創薬化学研究を展開するうえで、創薬化学研究者として必要とされる基礎知識と応用能力の習得を目的とする。

【授業概要】 医薬品リード化合物を分子設計し合成開発するために必要不可欠な、ヘテロ環化合物を中心とした創薬のための基礎化学、ならびに分子構造特性やベータラクタム系抗菌剤などに関する応用化学について講義する。

【履修上の注意】 講義は集中講義形式で行う予定。最終回の講義終了時に試験問題を配付する。「自ら学ぶ」という積極的な姿勢を期待する。

【授業計画】

1. 授業ガイダンスおよび創薬のための基礎化学概説 (担当者: 佐野 茂樹)
2. 創薬のための基礎化学 1 / ピリジンおよび関連ヘテロ環化合物の化学 (担当者: 佐野 茂樹)
3. 創薬のための基礎化学 2 / ピロールおよび関連ヘテロ環化合物の化学 (担当者: 佐野 茂樹)
4. 創薬のための基礎化学 3 / 含酸素および含硫黄ヘテロ環化合物の化学 (担当者: 佐野 茂樹)
5. 創薬のための基礎化学 4 / ヘテロ環化合物の立体化学 (担当者: 佐野 茂樹)
6. 創薬のための基礎化学 5 / オレフィン形成反応 (担当者: 佐野 茂樹)
7. 創薬のための基礎化学 6 / オレフィン形成反応 (担当者: 佐野 茂樹)
8. 創薬のための基礎化学 7 / 酵素反応 (担当者: 佐野 茂樹)
9. 創薬のための基礎化学 8 / 酵素反応 (担当者: 佐野 茂樹)
10. 創薬のための応用化学概説 (担当者: 佐野 茂樹)
11. 創薬のための応用化学 1 (担当者: 外部講師)
12. 創薬のための応用化学 2 (担当者: 外部講師)
13. 創薬のための応用化学 3 (担当者: 外部講師)
14. 創薬のための応用化学 4 (担当者: 外部講師)
15. 創薬のための応用化学 5 (担当者: 外部講師)

【成績評価】 出席状況とレポート試験により評価する。

【教科書】 必要に応じて講義資料を配付するとともに、参考書等を紹介する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=182867>

【連絡先】

- ⇒ 佐野 (薬学部本館 6 階東, 088-633-7273, ssano@ph.tokushima-u.ac.jp) **MAIL**
(オフィスアワー: 随時)
- ⇒ (研究室)薬学部・分子創薬化学研究室(本館6階東)
(研究室のホームページ)<http://www.ph.tokushima-u.ac.jp/?&rf=116>
(Eメールアドレス)ssano@ph.tokushima-u.ac.jp

【備考】 平成 22 年度後期開講

薬品合成化学特論**Medicinal Chemistry**

2 単位 隔年 (前期)

大高 章(授業責任者)・教授 / 創薬科学専攻, 根本 尚夫・准教授 / 創薬科学専攻

【授業目的】 生体を化学を利用して理解する上で必要な有機化学について基礎知識を身につけさせる。

【授業概要】 近年, 化学を利用して生命を理解しようとする学問分野 “Chemical Biology” が非常に注目を集めています。生体现象を化学的に理解するための基礎知識としてのアミノ酸, ペプチド, タンパク質化学および創薬を支援する機能分子について解説します。

【履修上の注意】 e-learning 化には対応していない

【授業計画】

1. Chemical Biology 入門 (担当者: 大高 章)
2. Chemical Biology 入門 (担当者: 大高 章)
3. アミノ酸の化学 (担当者: 大高 章)
4. ペプチド・タンパク質化学 (担当者: 大高 章)
5. ペプチド・タンパク質化学 (担当者: 大高 章)
6. ペプチド・タンパク質を作る (担当者: 大高 章)
7. ペプチド・タンパク質を使う (担当者: 大高 章)
8. ペプチド・タンパク質を使う (担当者: 大高 章)
9. Forward Chemical Genetics (担当者: 大高 章)
10. Reverse Chemical Genetics (担当者: 大高 章)
11. 酵素化学 (担当者: 大高 章)
12. 創薬支援分子 (担当者: 根本 尚夫)
13. 創薬支援分子 (担当者: 根本 尚夫)
14. 創薬支援分子 (担当者: 根本 尚夫)
15. 創薬支援分子 (担当者: 根本 尚夫)

【成績評価】 出席状況とレポート

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=182868>

【連絡先】

- ⇒ 大高 (aotaka@ph.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: いつでも結構です)
- ⇒ 根本 (088-633-7284, nem@ph.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: いつでも結構です)

【備考】

- ◇ 随時プリントなどを配布
- ◇ 平成 21 年度前期開講

薬品製造化学特論

Pharmaceutical Organic Chemistry

2 単位 隔年 (後期)

落合 正仁(授業責任者)・教授/創薬科学専攻, 宮本 和範・助教/創薬科学専攻

【授業目的】 環境に調和しつつ資源の再活用・持続的利用を可能とする高選択的有機合成化学反応(精密薬品製造化学反応)を理解し, 創薬化学研究の第一線で活躍するための基礎を身につけます。

【授業概要】 学部の講義で学んだ炭素を中心とする第二周期元素化合物の化学を超えた有機合成化学を学習します。octet 則に従う有機化合物とは原子価が本質的に異なる超原子価ヘテロ原子化合物の結合論・反応特性・構造特性について学びます。また, 超原子価結合を活用する高度に選択的な環境調和型薬品製造化学反応, 反応活性種の化学, 超分子化学種(クラウンエーテルやシクロデキストリンなど)の触媒作用と機能についても講義します。

【キーワード】 超原子価結合, 超脱離基, 超分子, カルベン, ヨウ素

【先行科目】 『薬化学特論』(1.0), 『薬品合成化学特論』(1.0)

【関連科目】 『植物環境資源学特論』(1.0)

【履修上の注意】 対話形式の講義。議論・質問・討論を重視します。

【授業計画】

1. 超原子価結合の化学 / なぜ超原子価結合論か? (担当者: 落合 正仁)
2. 超原子価結合の化学 / 超脱離能とその起源 (担当者: 落合 正仁)
3. 超原子価結合の化学 / 配位子交換反応とトランス影響 (担当者: 落合 正仁)
4. 超原子価結合の化学 / リガンドカップリングとその機構 (担当者: 落合 正仁)
5. 超原子価結合の化学 / オレフィン SN2 反応は可能か? (担当者: 落合 正仁)
6. 超原子価結合の化学 / [3,3]-シグマトロピー転位 (担当者: 落合 正仁)
7. 超原子価結合の化学 / 超原子価ヨウ素と触媒的酸化反応 (担当者: 落合 正仁)
8. 反応活性種の化学 / 不安定イリドと有機合成反応 (担当者: 落合 正仁)
9. 反応活性種の化学 / アルキリデンカルベンの 1,5 C-H 挿入反応 (担当者: 落合 正仁)
10. 反応活性種の化学 / アルキリデンカルベンの 1,2 転位 (担当者: 落合 正仁)
11. 反応活性種の化学 / ラジカルと有機合成反応 (担当者: 落合 正仁)
12. 反応活性種の化学 / カルボカチオンの化学 (担当者: 落合 正仁)
13. 超分子の化学 / クラウンエーテルの化学 (1) (担当者: 宮本 和範)
14. 超分子の化学 / クラウンエーテルの化学 (2) (担当者: 宮本 和範)
15. 超分子の化学 / クラウンエーテルの化学 (3) (担当者: 宮本 和範)

【成績評価】 出席状況, 議論・質問の内容及びレポート等により評価します。

【教科書】 使用しない。資料(プリント)を配布します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=182870>

【連絡先】

⇒ 落合 (088-633-7281, mochiai@ph.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: いつでもどうぞ。)

⇒ 宮本 (088-633-9532, kmiya@ph.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: いつでもどうぞ。)

【備考】 平成 21 年度後期開講

生薬学特論

2 単位 隔年 (後期)

Pharmacognosy and Natural Products Chemistry

高石 喜久 (授業責任者)・教授 / 創薬科学専攻, 柏田 良樹・准教授 / 創薬科学専攻

【授業目的】 生薬, 薬用植物など天然医薬品素材を理解し, それらについての現状と将来, 研究方法, 最新の研究動向に関する基本事項を身につける.

【授業概要】 人々の病気の治療・予防に大きな役割を担っている天然医薬品素材 (生薬, 薬用植物, 漢方薬, 健康食品) を私たちの生活に役立てるための知識, 天然医薬品から近代的医薬品を開発する方法論・研究例, 民族薬物学, 天然物化学の研究, 当研究室の研究等について解説する.

【授業計画】

1. 授業ガイダンス+生薬・薬用植物総論 (担当者: 高石 喜久)
2. 医薬品としての天然医薬品素材 (担当者: 高石 喜久)
3. 天然医薬品素材から開発された医薬品 (担当者: 高石 喜久)
4. ルネッサンスを迎えた天然物化学 (担当者: 高石 喜久)
5. 代替医療と生薬・薬用植物・漢方 (担当者: 高石 喜久)
6. 民族薬物調査, その1 (担当者: 高石 喜久)
7. 民族薬物調査, その2 (担当者: 高石 喜久)
8. 最新の天然医薬品開発研究の動向, その1 (担当者: 高石 喜久)
9. 最新の天然医薬品開発研究の動向, その2 (担当者: 高石 喜久)
10. 生薬「雷公藤」の研究, その1 (担当者: 高石 喜久)
11. 生薬「雷公藤」の研究, その2 (担当者: 高石 喜久)
12. 天然物化学に関する最新の研究例 (担当者: 柏田 良樹)
13. 天然医薬品素材から坑 HIV 薬の開発研究, その1 (担当者: 柏田 良樹)
14. 天然医薬品素材から坑 HIV 薬の開発研究, その2 (担当者: 柏田 良樹)
15. 総合討論 (担当者: 高石 喜久, 柏田 良樹)

【成績評価】 出席状況と小テストまたはレポートにより評価する.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=182861>

【連絡先】

⇒ 高石 (088-633-7275, takaishi@ph.tokushima-u.ac.jp) **MAIL** (オフィスアワー: 講義日の12:00~ 13:00又はe-mailにより時間調整を行います).)

⇒ 柏田 (kasiwada@ph.tokushima-u.ac.jp) **MAIL** (オフィスアワー: 講義日の12:00~ 13:00又はe-mailにより時間調整を行います).)

【備考】

- ◇ 随時プリントを配布
- ◇ 平成 21 年度後期開講

植物環境資源学特論

2 単位 隔年 (前期)

Synthetic Strategies of Biologically Active Natural Products

宍戸 宏造(授業責任者)・教授/創薬科学専攻, 吉田 昌裕・准教授/創薬科学専攻, 非常勤講師

【授業目的】 創薬研究に欠かせない標的化合物指向型有機合成化学の基礎, 方法論および応用展開を学ぶ。

【授業概要】 重要な生理活性を持つ微量天然物を範として創薬研究を行うためには, 合成化学の力を借りて目的とする化合物を得なければならない。この講義では, 標的化合物の設定からスタートし, 合成戦略の立て方, 実際の合成法, 更には最新の有機反応の紹介とその有機合成への応用展開について講術する。また応用展開として, 医薬品シーズの探索から医薬品の合成プロセスへと至る流れについても解説する。

【履修上の注意】 e-learning は取り入れない。

【授業計画】

1. 授業ガイダンスと標的指向型有機合成化学の概要 (担当者: 宍戸)
2. 生理活性天然物の全合成-1 (担当者: 宍戸)
3. 生理活性天然物の全合成-2 (担当者: 宍戸)
4. 有機合成反応開発と医薬品創製への応用-1 (担当者: 吉田)
5. 有機合成反応開発と医薬品創製への応用-2 (担当者: 吉田)
6. 有機合成反応開発と医薬品創製への応用-3 (担当者: 吉田)
7. 生理活性分子の合成-1 (担当者: 外部講師)
8. 生理活性分子の合成-2 (担当者: 外部講師)
9. 生理活性分子の合成-3 (担当者: 外部講師)
10. 生理活性分子の合成-4 (担当者: 外部講師)
11. 生理活性分子の合成-5 (担当者: 外部講師)
12. 医薬品化学-1 (担当者: 外部講師)
13. 医薬品化学-2 (担当者: 外部講師)
14. 医薬品化学-3 (担当者: 外部講師)
15. 有機合成反応開発 (担当者: 外部講師)

【成績評価】 出席状況とレポート等により行う。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=182857>

【連絡先】

⇒ 宍戸 (附属医薬創製教育研究センター 4F, 088-633-7287, shishido@ph.tokushima-u.ac.jp) **MAIL** (オフィスアワー: 金曜日の10時~12時(調節可, メールで問合せること))

⇒ 吉田 (088-633-7294, yoshida@ph.tokushima-u.ac.jp) **MAIL** (オフィスアワー: 金曜日の10時~12時(調節可, メールで問合せること))

【備考】

- ◇ 平成 22 年度前期開講
- ◇ 講義は随時プリントを配布, もしくはパワーポイントを使用する。

海洋環境資源学特論**Marine Natural Products as Drug Resources**

2 単位 隔年 (前期)

大井 高 (授業責任者)・准教授 / 創薬科学専攻

【授業目的】 日常生活では目に触れることがない珍しい海洋生物が、実はこれまで人類が遭遇したことがない物質を生産していること、それらの多くが医薬のリード化合物として有望であることを理解する。また、それら化合物の構造決定方について理解する。

【授業概要】 生薬、漢方薬を始めとする伝承薬は、数千年にわたる人間の生活から生まれたもので、主として陸上動植物を利用している。一方、海洋生物と人類との関わりはわずか数十年であり、海洋生物が医薬として用いられた例は皆無とあって良い。この授業では海洋生物の代謝物について講義し、それらがどのような薬理活性を持ちどのような薬として利用される可能性があるかについて説明する。あわせてそれら化合物の構造決定に有効な 2D-NMR など最新の機器分析法について説明する。

【履修上の注意】 初歩的な有機化学と器機分析の基礎を理解しておく必要がある。
e-learning は行わない

【授業計画】

1. 海洋天然物化学の歴史
2. 海洋生物の分類
3. 海洋生物の代謝産物を化合物群に分ける
4. 海藻から得られる薬理活性化合物
5. 海洋軟体動物が生産する薬理活性化合物
6. フグ毒テトロドトキシンについて
7. 微細藻が生産する猛毒シガトキシンなど
8. 水圏生物の間で取り交わされる情報物質-I-
9. 水圏生物の間で取り交わされる情報物質-II-
10. 複雑な海洋天然物の構造決定について-最新の NMR-
11. 複雑な海洋天然物の構造決定について-絶対配置とは-
12. 複雑な海洋天然物の構造決定について-X 解析-
13. 医薬リード化合物としての海洋天然物-I-
14. 医薬リード化合物としての海洋天然物-II-
15. 医薬リード化合物としての海洋天然物-III-

【成績評価】 出席状況と小テストまたはレポート等により評価する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=182858>

【連絡先】

⇒ 大井 (088-633-7289, tooi@ph.tokushima-u.ac.jp) MAIL

【備考】 平成 22 年度前期開講

環境生物学特論

2 単位 隔年 (前期)

Special Lecture for Medicinal Biotechnology

伊藤 孝司 (授業責任者)・教授 / 創薬科学専攻, 非常勤講師

【授業目的】 ポストゲノム時代における生命科学を基盤とした疾患の治療薬開発のための、新しいアプローチを紹介し、21世紀の創薬を担う研究者の視点を養うことを目的とする。

【授業概要】 ヒトゲノム DNA の全塩基配列の解読が完了し、ゲノム情報を利用して、ファンクショナルゲノミクス、プロテオミクス、グライコミクス、メタボロミクスなどの新しい生命科学分野が発展している。本講義では、疾患の発症・進展メカニズムの研究について解説するとともに、ゲノム創薬をはじめ、細胞工学、抗体工学、RNA 工学、糖鎖工学、再生工学などの先端技術による医薬品および治療法開発への応用に関するトピックスを講述する。

【履修上の注意】 毎週月曜日第 6 講時 (18:15~ 19:45) に講義を行う。該当日に出席できない場合はレポート提出等で出席を考慮する。

【授業計画】

1. 授業ガイダンス+環境生物学序論 (担当者: 伊藤 孝司)
2. 糖鎖生物学と疾患 1 (担当者: 伊藤 孝司)
3. 糖鎖生物学と疾患 2 (担当者: 外部講師)
4. グライコミクスとその応用 1 (担当者: 外部講師)
5. グライコミクスとその応用 2 (担当者: 外部講師)
6. グライコテクノロジーとその応用 (担当者: 外部講師)
7. ペプチド・タンパク質工学とその応用 (担当者: 外部講師)
8. 脂質生物学と疾患 (担当者: 外部講師)
9. 幹細胞生物学の最近の進歩 (担当者: 伊藤 孝司)
10. 幹細胞生物学と再生治療 (担当者: 外部講師)
11. 幹細胞工学と再生医療への応用 (担当者: 伊藤 孝司)
12. がんのプロテオミクス (担当者: 伊藤 孝司)
13. がんの生物学と治療 (担当者: 外部講師)
14. 抗がん剤開発の現状 (担当者: 外部講師)
15. 組換え医薬品開発と現状 (担当者: 外部講師)

【成績評価】 出席状況とレポートにより評価する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=182859>

【連絡先】

⇒ 伊藤 (薬科学教育部附属医薬創製教育研究センター 2 階・創薬生命工学分野教授室, 088-633-7290, kitoh@ph.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 特に指定しない。質問等はメールで受け付け、必要があれば伊藤(担当責任者)が面談する。)

【備考】

- ◇ 平成 22 年度前期開講
- ◇ 随時講義資料としてプリントを配布する。

薬物応答制御学特論**Theory of Controlled Medication Response**

2 単位 隔年 (後期)

武市 陽一郎(授業責任者)・非常勤講師 / 薬科学教育部, 永山 績夫・非常勤講師 / 薬科学教育部
岡 俊範・非常勤講師 / 薬科学教育部

【授業目的】 薬剤応答性解析は薬の効く人, 効かない人, 副作用の出る人, 出ない人を薬剤投与前に見極め, 患者のための治療を進めようという近年の概念である. その基礎的概念と必要性について講述する. また最近の解析技術の急速な進歩とその技術を用いた制御の例について講述する.

【授業概要】 学部の薬物動態学の基礎概念を受講者が保持していることを前提として, FDA の Guidance, 最近の学会, 文献発表例を示し, 講述する. また, 薬剤応答を規定する因子の抽出方法, その因子を用いた制御の例を示し, 講述する.

【履修上の注意】 特になし

【授業計画】

1. 授業ガイダンス+薬物応答制御学序論 (担当者: 武市 陽一郎)
2. バイオマーカーについて (担当者: 永山 績夫)
3. 薬物の生体内曝露を規定するバイオマーカー I (担当者: 永山 績夫)
4. 薬物の生体内曝露を規定するバイオマーカー II (担当者: 永山 績夫)
5. 薬物の感受性を規定するバイオマーカー (担当者: 永山 績夫)
6. フッ化ピリミジン系抗癌剤について (担当者: 永山 績夫)
7. フッ化ピリミジン系抗癌剤における薬剤応答性解析 (担当者: 永山 績夫)
8. バイオマーカーに関する最近のトピック (担当者: 永山 績夫)
9. 企業のテラーメイド医療への取り組み (担当者: 岡 俊範)
10. Pharmacogenomics と FDA ガイダンス (担当者: 岡 俊範)
11. バイオインフォマティクスの基礎 (担当者: 岡 俊範)
12. Pharmacogenomics 研究のための新しい解析技術 (担当者: 岡 俊範)
13. 遺伝子発現解析による薬物応答規定因子の探索と応用 (担当者: 岡 俊範)
14. 蛋白発現解析による薬物応答規定因子の探索と応用 (担当者: 岡 俊範)
15. 遺伝子多型解析による薬物応答規定因子の探索と応用 (担当者: 岡 俊範)

【成績評価】 出席状況と小テストまたはレポート等により評価する.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=182874>

【連絡先】

⇒ 武市 . (オフィスアワー: 特に設定しません, e-mail にていずれかの教員に問い合わせして下さい. その都度, 時間調整と面談場所を設定します .)

【備考】

- ◇ 平成 22 年度後期開講
- ◇ 随時プリントを配付

臨床薬理学特論**Clinical Pharmacology**

2 単位 隔年 (前期)

滝口 祥令 (授業責任者)・教授 / 医療生命薬学専攻, 山崎 尚志・准教授 / 医療生命薬学専攻

【授業目的】 個々の患者に対する安全で有効な合理的薬物治療を支援し、医薬品の適正使用を支えるために必要な実践的知識を身につける。

【授業概要】 医薬品開発および医薬品の適正使用に役立つ薬剤の有効性と安全性の予測評価理論と、薬効変動に影響を及ぼす生体側因子を考慮した医薬品適正使用へのアプローチについて、その考え方と応用を解説する。

【履修上の注意】 e-learning 化していない

【授業計画】

1. PK パラメーターの活用法 (1) (担当者: 滝口祥令)
2. PK パラメーターの活用法 (2) (担当者: 滝口祥令)
3. PK/PD モデルによる薬効予測 (1) (担当者: 滝口祥令)
4. PK/PD モデルによる薬効予測 (2) (担当者: 滝口祥令)
5. アニマルスケールアップ法による薬効予測 (1) (担当者: 滝口祥令)
6. アニマルスケールアップ法による薬効予測 (2) (担当者: 滝口祥令)
7. 時間薬物治療学と個別化治療 (担当者: 滝口祥令)
8. 薬理遺伝学と個別化治療 (担当者: 滝口祥令)
9. 薬物療法の EBM 実践 (担当者: 滝口祥令)
10. 臨床試験プロトコール作成 (担当者: 滝口祥令)
11. 薬物治療効果を左右する生体因子 (1) 酵素 (担当者: 山崎尚志)
12. 薬物治療効果を左右する生体因子 (2) 受容体 (担当者: 山崎尚志)
13. 薬物治療効果を左右する生体因子 (3) ホルモン (担当者: 山崎尚志)
14. 薬物治療効果を左右する生体因子 (4) 生活習慣 (担当者: 山崎尚志)
15. 薬物治療効果を左右する生体因子 (5) 性差・種差 (担当者: 山崎尚志)

【成績評価】 出席, レポート及び受講態度により総合的に評価する。

【教科書】 資料を配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=182865>

【連絡先】

- ⇒ 滝口 (088-633-7466, takiguti@ph.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 講義開講日の12:00-13:00)
- ⇒ 山崎 (088-633-9516, yamazaki@ph.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 講義開講日の12:00-13:00)

【備考】 平成 22 年度開講予定

医薬品情報学特論**Drug Informatics**

2 単位 隔年 (前期)

山内 あい子 (授業責任者) ・准教授 / 医療生命薬学専攻

【授業目的】 医薬品の創製、適正使用、および育薬の各過程において極めて重要な意味を持つ「医薬品情報」について全般的に理解し、医薬品情報のスペシャリストとして薬剤師や医薬情報担当者などの業務に活用することのできる知識と技能を養うとともに、医薬品情報学の将来展望についても考える。

【授業概要】 医薬品はその開発研究から市販後の適正使用に至るまで「情報の化身」であり、適正な医療を進めるためには広範な「医薬品情報」を理解することが重要である。このために、医療制度や新薬承認制度に基づいた医薬品開発情報、医薬品の安全性確保のための対策、医薬品適正使用のための種々安全性情報に関する最新知識、医薬品に関連する臨床情報の収集、解析・評価、加工、提供、および情報管理のため方法論を講述するとともに、臨床薬剤師によるファーマシューティカル・ケアの実際について解説する。さらに、これからの医薬品情報学が目指すべき方向についても、共に考えたい。

【履修上の注意】 演習を含みますので出席を毎回取ります。

【授業計画】

1. 医薬品情報学とは
2. 医薬品の開発から市販後までの薬事情報 (1)
3. 医薬品の開発から市販後までの薬事情報 (2)
4. 医薬品の開発から市販後までの薬事情報 (3)
5. 医薬品適正使用と医薬品情報 (1)
6. 医薬品適正使用と医薬品情報 (2)
7. 医薬品安全性情報 (1)-副作用の早期発見をめざして
8. 医薬品安全性情報 (2)-副作用の早期発見をめざして
9. 医薬品安全性情報 (3)-妊娠・授乳期の医薬品情報
10. 薬物相互作用情報 (1)
11. 薬物相互作用情報 (2)
12. 薬剤師と DI 業務
13. ファーマシューティカル・ケアの実際
14. これからの医薬品情報学と情報科学
15. 試験

【成績評価】 出席状況、レポート、および試験等により評価します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=182855>

【連絡先】

⇒ 山内 (088-633-7266, aiko@ph.tokushima-u.ac.jp) **MAIL** (オフィスアワー: 随時)

【備考】

- ◇ 講義資料は適宜配布し、参考図書も必要に応じて紹介します。
- ◇ 平成 21 年度前期開講

薬剤学特論

2 単位 隔年 (後期)

Advanced Biopharmaceutics

際田 弘志・教授 / 医療生命薬学専攻, 石田 竜弘・准教授 / 医療生命薬学専攻

【授業目的】 薬物の有効性・安全性を論じる上で、薬物の体内動態を理解することは極めて重要である。薬剤学は、その解析、評価、さらにはその制御までを考究する学問分野である。本講は学部時代に学んだ薬物動態学の基礎的事項に基づいて、さらに実際の応用に即応した知識や情報を修得する。

【授業概要】 薬物動態学の応用面として、医薬品開発における代謝研究 (薬物代謝学)、およびその定量的評価法の開発 (生理学的薬物速度論)、臨床現場における血中濃度の経時データの取り扱い (臨床薬物速度論)、さらにより高い安全性と有効性を追求する DDS 開発 (薬物送達学) の 4 分野について講義する。

【履修上の注意】 e-learning には対応していないので毎回出席する必要がある。

【授業計画】

- 1~4. 薬物代謝学 / 吸収・分派・代謝・排泄という薬物動態の中でも特に代謝は薬物の有効性・安全性に大きく関わっている。ここでは代謝の様式、代謝酵素、代謝誘導、薬物相互作用など医薬品を開発する上で重要となる代謝に関する事項を解説する。(担当者: 際田 弘志)
- 5~7. 生理学的薬物速度論 / 主にウエルスタッドモデルにしたがって、肝臓器クリアランスと固有クリアランスとの関係、またこの理論に基づいてアベイラビリティや抽出率の算出および血中濃度シミュレーションの技法を解説する。(担当者: 際田 弘志)
- 8~11. 臨床薬物速度論 / TDM を始めとして、臨床現場での薬物速度論の有用性は極めて高い。ここでは、実際のデータに即して血中濃度データを解析する場合に有用となる理論的な裏付けを講義するとともに、演習形式で練習問題を解き、より深い理解を促す。(担当者: 石田 竜弘)
- 12~15. 薬物送達学 / DDS の概念と分類及びその有用性、動態制御のストラテジー、ターゲティングの意義とその方法論などを解説するとともに、開発の現状と問題点についても解説する。さらにリポソームを例に最新の研究状況の紹介も行う。(担当者: 石田 竜弘)

【成績評価】 出席状況と小テストまたはレポートにより評価する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=182866>

【連絡先】

- ⇒ 際田 (088-633-7259, hkiwada@ph.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 随時(要, メールでのアポ))
- ⇒ 石田 (088-633-7260, ishida@ph.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 随時(要, メールでのアポ))

【備考】

- ◇ 教科書は使用しない。随時プリント等を配布
- ◇ 平成 21 年度後期開講

薬物代謝学特論

Drug Metabolism and Therapeutics

2 単位 隔年 (前期)

荒木 勉 (授業責任者) ・教授 / 医療生命薬学専攻

【授業目的】 脳の構造及び神経変性疾患を中心とした病態と発症機序を理解させる。次いで、薬剤による治療の限界及び薬物代謝の問題点等についての知識を修得することを目標とする。

【授業概要】 学部における知識を基礎にして、病態に関する知識を修得する。基礎理論から最新の話題までの医療現場の現状を概説後、課題研究を与える。

【履修上の注意】 講義中に、理解度を把握する為に、小テストを実施する場合があります。

出席、課題テーマのレポートを重視します。

【授業計画】

1. 脳の構造 (1) 中枢機能の概論
2. 脳の構造 (2) 脳血管の役割
3. 脳の構造 (3) 脳諸部位の役割における相違
4. 脳の病態 (1) 水頭症の発生機序
5. 脳の病態 (2) パーキンソン病の病態生理
6. 脳の病態 (3) パーキンソン病に対する薬物治療
7. 脳の病態 (4) 虚血性脳疾患の病態生理
8. 脳の病態 (5) 虚血性脳疾患の薬物療法
9. 脳の病態 (6) 脳動脈瘤の発生機序
10. 脳の病態 (7) 脳腫瘍の発生機序
11. 脳の病態 (8) 高血圧と脳血管障害
12. 睡眠時無呼吸症候群 / 脳組織に与える影響
13. 加齢黄斑変性症 / 失明原因に関する対応
14. 総合討論 課題を出します
15. 総復讐
16. 定期試験

【成績評価】 出席、受講態度、レポート及び試験で評価します。再試験 予定無。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=182872>

【連絡先】

⇒ 荒木 (病態神経薬学分野, 088-633-7277, tsuaraki@ph.tokushima-u.ac.jp)

MAIL (オフィスアワー: 毎週金曜日12-13時 5階 薬効解析学分野)

【備考】

- ◇ 平成 22 年度前期開講
- ◇ 講義資料は適宜配布し、参考図書も必要に応じて紹介します。

臨床薬剤学特論

Pharmaceutical Health Care and Science

2 単位 隔年 (後期)

水口 和生(授業責任者)・教授 / 医療生命薬学専攻, 荒木 博陽・肩書 / 愛媛大学, 芳地 一・肩書

齋藤 晴比古・肩書 / 徳島通信病院, 川添 和義・准教授 / 医療生命薬学専攻, 村雲 儀廣・肩書 / 徳島県業務課

【授業目的】 臨床現場で活躍する指導的薬剤師, 特に「薬のスペシャリスト」として必要な知識を身につける。

【授業概要】 学部教育で行わない, 医療機関での医薬品に関するマネジメントの実際, 医療経営, リスク管理等, 臨床現場での薬剤管理者として必要な講義を行う。

【履修上の注意】 e-learning については検討中である。

【授業計画】

1. 授業ガイダンス (担当者: 水口 和生)
2. 医療用医薬品をとりまく問題点と今後の展望 (担当者: 川添 和義)
3. 保険制度と医療経営 (担当者: 水口 和生)
4. 病院における安全管理と感染対策 (担当者: 水口 和生)
5. EBM と専門薬剤師 (担当者: 川添 和義)
6. 病院の IT 化 (担当者: 西岡 豊)
7. 治験審査委員会と治験の実際 (担当者: 水口 和生)
8. 最近の薬物療法 I (担当者: 齋藤 晴比古)
9. 最近の薬物療法 II (担当者: 荒木 博陽)
10. 最近の薬物療法 III (担当者: 芳地 一)
11. 輸液の使い方 (担当者: 水口 和生)
12. 医療用漢方と使用の実際 I (担当者: 川添 和義)
13. 医療用漢方と使用の実際 II (担当者: 川添 和義)
14. GMP の実際 (担当者: 村雲 儀廣)
15. 臨床現場における研究の事例 (担当者: 川添 和義)

【成績評価】 出席状況とレポートにより評価する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=182863>

【連絡先】

⇒ 水口 (088-633-7212, minakuti@clin.med.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィ
スアワー: 月曜日の9:00~ 11:00, 川添和義:e-mail により適宜時間調節し
ます。)

【備考】

- ◇ 随時プリント等を配付
- ◇ 平成 21 年度後期開講

臨床病態学特論

2 単位 隔年 (後期)

Selective lecture of Clinical Physiology

前田 健一(授業責任者)・教授 / 医療生命薬学専攻, 井崎 ゆみ子・准教授 / 保健管理センター

【授業目的】 疾病の医学的基礎知識を習得することより、総合的な観点から診療に参加する能力を身につける。

【授業概要】 呼吸器, アレルギー疾患および精神神経疾患について講義する。

【履修上の注意】 e-learning 化はしていない

【授業計画】

1. 呼吸器の生理学 (担当者: 前田 健一)
2. 精神医学総論, メンタルヘルス (担当者: 井崎 ゆみ子)
3. アレルギーの病態生理 (担当者: 前田 健一)
4. 認知症 (担当者: 井崎 ゆみ子)
5. 気管支喘息 (担当者: 前田 健一)
6. 精神作用物質使用による精神の障害 (担当者: 井崎 ゆみ子)
7. カゼ・インフルエンザ (担当者: 前田 健一)
8. 統合失調症 (担当者: 井崎 ゆみ子)
9. 肺炎・結核 (担当者: 前田 健一)
10. 気分障害 (担当者: 井崎 ゆみ子)
11. 肺癌 (担当者: 前田 健一)
12. 神経症性障害 (担当者: 井崎 ゆみ子)
13. 喫煙の影響 (担当者: 前田 健一)
14. 児童思春期の精神障害 (担当者: 井崎 ゆみ子)
15. 慢性閉塞性呼吸器疾患 (担当者: 前田 健一)

【成績評価】 出席状況とテストにより評価する

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=182862>

【連絡先】

⇒ 前田 (maedak@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: e-mailにて時間調節の上, 面談してください。)

【備考】

- ◇ 随時プリントを配布
- ◇ 平成 21 年度後期開講

薬物学特論**advanced class of pharmacology**

2 単位 隔年 (前期)

福井 裕行(授業責任者)・教授/医療生命薬学専攻, 水口 博之・准教授/医療生命薬学専攻

【授業目的】 多因子疾患治療, 疾患感受性遺伝子, テイラーメイド医療について, 分子薬理学を基礎にして理解することを目的とする.

【授業概要】 多因子疾患克服は現代医学の重要課題である. 多因子疾患の症状発現には種々のシグナルネットワークが関与するが, その中から疾患感受性遺伝子の同定とその機構を標的とする治療薬の開発を如何にするかについて研究が進められている. また, 個々の病理機構の違いからテーラーメイド医療が必要とされる. 本授業ではこれらの問題点についてアレルギー疾患を材料に授業を行う.

【履修上の注意】 多因子疾患についての予備知識を貯えておくこと

【授業計画】

1. 7月17日 多因子疾患について (担当者: 福井)
2. 7月17日 疾患関連遺伝子 (担当者: 福井)
3. 7月18日 遺伝子発現機構 (担当者: 水口 博)
4. 7月18日 遺伝子発現の抑制 (担当者: 水口 博)
5. 7月24日 疾患感受性遺伝子 (担当者: 福井)
6. 7月24日 薬物と遺伝子発現抑制 (担当者: 福井)
7. 7月25日 レポート作成
8. 7月25日 レポート作成

【成績評価】 レポートにより評価する.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=182873>

【連絡先】

- ⇒ 福井 (hfukui@ph.tokushima-u.ac.jp) **MAIL** (オフィスアワー: 随時, 薬学部研究棟3階東に訪問して下さい. 又は, 上記メールで受け付けます.)
- ⇒ 水口 (088-633-7264, guchi003@ph.tokushima-u.ac.jp) **MAIL** (オフィスアワー: 随時, 薬学部研究棟3階東に訪問して下さい. 又は, 上記メールで受け付けます.)

【備考】

- ◇ 7月17, 18日 (金, 土), 24, 25日 (金, 土)
- ◇ 最終日 (7月25日, 土曜日), レポート作成予定
- ◇ 平成 21 年度前期開講

薬学生化学特論**Advanced Pharmaceutical Biochemistry**

2 単位 隔年 (前期)

土屋 浩一郎 (授業責任者)・教授 / 医療生命薬学専攻

【授業目的】 生化学的側面から病態を理解するとともに、医薬品が生体内高分子と相互作用することで薬理作用を発揮するしくみを理解する。

【授業概要】 病気を細胞レベルや分子レベルで生化学的な視点から観察することで、病態と糖質・脂質・蛋白質との関連が近年明らかにされつつある。そしてこれらの知識を活用することにより、病気の発症過程に基づきターゲット分子を選択し、特異的な薬剤の開発が行われつつある。

薬学生化学特論では、代表的な疾患における生体高分子の変化をとりあげ、それらに対する検出法ならびに医薬品による新しい治療法や、医薬品開発へのアプローチ等を講述する。

【キーワード】 生活習慣病発症メカニズムの解明

【履修上の注意】 教科書は使用せずに、その都度資料を配布して講義を行います。

【授業計画】

1. がんの生化学 1 / 細胞障害性抗がん剤
2. がんの生化学 2 / 細胞障害性抗がん剤
3. がんの生化学 3 / 細胞障害性抗がん剤
4. がんの生化学 4 / 分子標的薬
5. がんの生化学 5 / 分子標的薬
6. がんの生化学 6 / 分子標的薬
7. 遺伝病の生化学
8. 遺伝病の生化学
9. 新規糖尿病治療薬と生化学 1
10. 新規糖尿病治療薬と生化学 2
11. 肥満の生化学 1
12. 肥満の生化学 2
13. 痴呆と生化学
14. 遺伝子診断
15. 遺伝子治療
16. レポート提出

【成績評価】 レポート

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=182871>

【連絡先】

⇒ 土屋 (薬物機能制御学講座, 088-633-7250, tsuchiya@ph.tokushima-u.ac.jp)
p) MAIL (オフィスアワー: 随時(メール連絡にて確認必要)医薬品機能解析学授室)

【備考】 平成 22 年度前期開講

微生物薬品化学特論

Chemotherapy

2 単位 隔年 (前期)

新垣 尚捷・准教授 / 医療生命薬学専攻

【授業目的】 代表的な感染症を理解するため、病原微生物に関する専門的知識と薬剤に対する耐性獲得の機序を理解するとともに、新規の抗菌抗ウイルス剤の開発に関する戦略を修得する。

【授業概要】 代表的な感染症を引き起こす病原微生物について、特徴・病原因子・疾患に関する概説、薬剤に対する耐性獲得の機序及び新規の抗菌抗ウイルス剤の開発に関する戦略に関する概説。

【履修上の注意】 本講義は、教官がまず各項目について講義をするとともに、テーマを各受講者に与え、調査内容にて発表するセミナー形式で行う。

【授業計画】

1. 主な DNA ウイルスが引き起こす代表的な疾患と治療薬について概説。
2. 主な RNA ウイルスが引き起こす代表的な疾患と治療薬について概説。
3. レトロウイルスが引き起こす疾患と治療薬について概説。
4. グラム陽性球菌の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患と治療薬について概説。
5. グラム陰性球菌の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患と治療薬の概説。
6. グラム陽性桿菌の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患と治療薬について概説。
7. グラム陰性桿菌の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患および治療薬の概説。
8. グラム陰性スピリルム属病原菌の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患及び治療薬について概説。
9. 抗酸菌の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患及び治療薬について概説。
10. スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアの微生物学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患と治療薬について概説。
11. 真菌 (アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ) の微生物学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患及び治療薬について概説。
12. プリオン感染症の病原体の特徴と発症機序について概説。
13. 新興感染症を引き起こす病原体 (SARS, エボラウイルス, 鳥インフルエンザウイルス) が引き起こす病態
14. 薬剤耐性機序の概説。
15. 新規の抗菌抗ウイルス剤の開発に関する戦略

【成績評価】 発表内容、レポートについて採点し、本試験とともに総合判定する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=182856>

【連絡先】

⇒ 新垣 (088-633-7255, arakaki@ph.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 水曜日の12時から13時)

【備考】 平成 22 年度前期開講

衛生化学特論

Pharmaceutical Health Chemistry

2 単位 隔年 (後期)

徳村 彰 (授業責任者)・教授 / 医療生命薬学専攻, 田中 保・准教授 / 医療生命薬学専攻

【授業目的】 衛生薬学分野で最近注目を集めている話題として, 1) 酸化ストレスが生体におよぼす障害と, 2) 生体内におけるリン脂質の役割の二つを採りあげ, 概説する.

【授業概要】 酸化ストレスと関連疾患, 活性酸素によるリン脂質の酸化変性と疾患との係り, リン脂質の構造と機能およびその代謝異常と疾患との関連などについて, 基礎から最新の研究にわたる内容を, 生化学, 分子生物学, 病態生理学など様々な視点から講義する.

【履修上の注意】 後日, 講義の日程と場所を通知します.

【授業計画】

1. 授業ガイダンス
2. 生体内での活性酸素発生機構
3. 酸化ストレスによる細胞傷害と抗酸化性因子によるその防御
4. 生体膜やリポタンパクリン脂質の酸化変性
5. 生体膜脂質の構造と機能-1
6. 生体膜脂質の構造と機能-2
7. 脂質代謝異常と生活習慣病-1
8. 脂質代謝異常と生活習慣病-2
9. 脂質メディエーターの構造と機能-1
10. 脂質メディエーターの構造と機能-2
11. 脂質メディエーターの構造と機能-3
12. 細胞内シグナル伝達に關与する脂質やその代謝物-1
13. 細胞内シグナル伝達に關与する脂質やその代謝物-2
14. 脂質の疾患バイオマーカーとしての役割-1
15. 脂質の疾患バイオマーカーとしての役割-2
16. 総復習

【成績評価】 出席, レポート及び受講態度を総合して評価します. (再試験) なし

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=182875>

【備考】

- ◇ 講義時に資料を配布し, 参考書を紹介します.
- ◇ 平成 21 年度後期開講

生物薬品化学特論**Medicinal Biochemistry**

2 単位 隔年 (前期)

篠原 康雄 (授業責任者)・教授 / 医療生命薬学専攻

【授業目的】 生体の機能発現の分子論についての理解を深めることによって、医薬品の活性発現機構を分子レベルで理解する。

【授業概要】 生体の機能発現のメカニズムを理解するためには、個体レベル、細胞やオルガネラレベル、タンパク質や分子レベルなど、異なるスケールでの研究が重要になる。本講義ではそれぞれのスケールでの研究事例を紹介し、生体の機能発現の分子論についての理解を深めることをめざす。また、医薬品の活性発現機構について、生体の機能との関連で理解を深める。

【授業計画】

1. 遺伝子発現解析法の概論
2. マイクロアレイ解析の現状と課題
3. 遺伝子発現規格化の現状と世界的動向
4. 遺伝子発現を用いた疾病診断の可能性
5. 膜とペプチドの相互作用の概論
6. ペプチドの膜透過
7. 人工的な膜タンパク質構築の可能性
8. 膜タンパク質の folding
9. DNA の構造のダイナミクス
10. DNA の動的構造と遺伝子発現の制御
11. ミトコンドリア学概論
12. ミトコンドリアによる細胞死の制御
13. 医薬品の作用機構 (1)
14. 医薬品の作用機構 (2)
15. レポート作成 (1)
16. レポート作成 (2)

【成績評価】 講義内容に関するレポートにより評価する

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=182860>

【連絡先】

⇒ 疾患ゲノム研究センター215号室

【備考】 平成 22 年度開講予定

臨床薬学実習 1

6単位 2年(前期, 後期)
学務委員会, 臨床薬学実習運営委員会

【授業目的】 病院・薬局薬剤師や臨床医による薬物治療に関する実習講義や演習で、より高度な臨床知識と技法を学習し、ついで病院および薬局実務実習を研修して臨床薬剤師業務の深い理解と技能を修得することを目的とする

【授業概要】 病院・薬局薬剤師や臨床医の講師により診断学、臨床化学や薬物治療について学習するとともにコミュニケーションスキル演習を受講したうえで、長期病院実務実習と短期薬局実務実習を行う。

【履修上の注意】 実習講義・演習・実務実習に積極的に取り組むこと

【授業計画】

1. 臨床薬学実習 2 で示した実習講義と演習を受講(前期)した後、薬剤師免許を有する実習生として下記項目の病院および薬局業務の実務を研修する(後期)。 1. 実習講義と演習(全34回)注 / 臨床薬学実習 2 の授業内容と同じですので参照のこと。 2. 実務実習 1) 病院実務実習 (1) 調剤業務 (2) 製剤・IVH 業務 (3) DI 活動業務 (4) 病棟業務 (5) 麻薬・注射・薬品管理業務 (6) TDM・試験業務 2) 薬局実務実習 (1) 調剤業務 (2) 服薬管理指導業務 (3) その他: 薬局管理業務等

【成績評価】 出席状況、講義・演習、実務実習態度などを総合評価する。

【教科書】 特に指定しないが、必要に応じて資料を提供する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=182851>

【連絡先】

⇒

【備考】

- ◇ 「医療薬学コース」必修科目
- ◇ 連絡事項はメールにより行いますので十分注意して下さい。
- ◇ その他担当教員: 薬学部・医学部教員および病院・薬局薬剤師

臨床薬学実習 2

2 単位 1 年 (前期)

学務委員会, 臨床薬学実習運営委員会

【授業目的】 医療現場のみならず他の薬学関連分野で必要となる種々の薬物治療に関する講義や演習を受講し, 臨床的な知識と高度なコミュニケーション技法などの修得を目的とする。

【授業概要】 薬学部・医学部教員, 病院・薬局薬剤師の講師によりリスクマネジメント, 診断学, 臨床化学や各種疾患の薬物治療について学習し, 全員参加型のコミュニケーションスキル演習を行う。

【履修上の注意】 実習講義・演習に積極的に取り組むこと。

【授業計画】

1. 以下に示す項目の講義をオムニバス方式で開講し, 模擬患者参加の下でコミュニケーションスキル演習を実施する。医療倫理と医療用語 (2 回) インフォームドコンセントとリスクマネジメント (2) 病院薬剤師業務, 保険薬局業務および POS 演習 (5) 院内感染対策と薬剤師業務 (2) 診断学, 看護学および NST 業務 (3) 臨床化学 (2) コミュニケーションスキル演習 (5) 薬物治療学 呼吸器疾患, 内分泌疾患および循環器疾患 (3) 眼疾患, 骨疾患および免疫・アレルギー疾患 (3) 腎疾患, 消化器疾患, 精神神経疾患 (3) 感染症と癌 (含疼痛管理)(2) 麻酔科領域と集学治療 (2)

【成績評価】 出席状況, 講義・演習の受講態度などを総合評価する。

【教科書】 特に指定しないが, 必要に応じて資料を提供する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=182852>

【連絡先】

⇒

【備考】

- ◇ 「生命薬学コース」必修科目
- ◇ 連絡事項はメールにより行いますので十分注意して下さい。
- ◇ その他担当教員:薬学部・医学部教員および病院・薬局薬剤師

第2章

博士後期課程

授業概要

● 全専攻系共通カリキュラム科目

生命倫理入門 ... 山野・板倉・太田・北村・久保・佐野・寺尾・中條・水口・松本/1年(後期)	39
臨床心理学 ... 佐藤・山本・境・三留/1年(前期)	40
社会医学・疫学・医学統計入門 ... 有澤・伊藤・上野・上村・木原・谷岡・徳村・日野出・森口・楊河/1年(後期)	41
英語論文作成入門 ... 市原・富田・梶・林・福井・中屋・岡崎・樋口・長篠・片岡/1年(後期)	42
心身健康と環境ストレス ... 武田	43
生命科学の研究手法 ... 羽地	44

● 各専攻系間の共通カリキュラム科目

臨床薬理学入門 ... 玉置・滝口・際田・土屋・山内・富田/毎年(後期)	45
ゲノム創薬特論 ... 伊藤・板倉・玉置・佐野/毎年(前期)	46
健康食品・漢方 ... 高石・寺尾・武田/毎年(後期)	47

● 専門科目

薬品物理化学特論 ... 中馬/毎年(後期)	48
製剤学特論 ... 植野/毎年(前期)	49
薬品分析学特論 ... 田中・竹内/毎年(前期)	50
薬化学特論 ... 佐野/毎年(後期)	51
薬品合成化学特論 ... 大高・根本/毎年(後期)	52
薬品製造化学特論 ... 落合・宮本/毎年(後期)	53
生薬学特論 ... 高石・柏田/毎年(前期)	54
植物環境資源学特論 ... 宍戸・吉田・非常勤講師/毎年(前期)	55
海洋環境資源学特論 ... 大井/毎年(前期)	56
環境生物工学特論 ... 伊藤・非常勤講師/毎年(前期)	57
薬物応答制御学特論 ... 武市・永山・岡/毎年(後期)	58
臨床薬理学特論 ... 滝口・山崎/毎年(前期)	59
医薬品情報学特論 ... 山内/毎年(前期)	60
薬剤学特論 ... 際田・石田/毎年(後期)	61
薬物代謝学特論 ... 荒木/毎年(前期)	62

臨床薬剤学特論 ... 水口・荒木・芳地・齋藤・川添・村雲/毎年(前期)	63
臨床病態学特論 ... 前田・井崎/毎年(後期)	64
薬物学特論 ... 福井・水口/毎年(前期)	65
薬学生化学特論 ... 土屋/毎年(前期)	66
微生物薬品化学特論 ... 新垣/毎年(前期)	67
衛生化学特論 ... 徳村・田中/毎年(後期)	68
生物薬品化学特論 ... 篠原/毎年(前期)	69

生命倫理入門

2 単位 (選択) 1 年 (後期)

Introduction to Biological Ethics

山野 修司・教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 板倉 光夫・教授/疾患ゲノム研究センター, 太田 房雄・教授

北村 清一郎・教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 久保 真一・教授, 佐野 壽昭・教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

寺尾 純二・教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 中條 信義・教授, 水口 和生・教授/医療生命薬学専攻, 松本 耕三・助教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

【授業目的】 バイオサイエンスおよび医療に従事する者は、人権、生命倫理に十分な配慮を行い、個人情報保護、実験動物愛護にも同じく目を向けなければならない。本授業は生命倫理に関わる基本的知識を修得することを目的としている。

【授業概要】 生命倫理学、臨床倫理学、社会倫理、個人情報保護、実験動物愛護などの問題に日頃接することの多い講師が、経験に基づいた講義をオムニバス方式で行う。

【履修上の注意】 講義の一部は e-learning 化しているので、e-learning 学習も出席として取り扱う。

【授業計画】

1. 「ヒトゲノム・遺伝子解析に関する倫理指針」について (担当者: 板倉 光夫)
2. 「実験動物管理と情報処理にまつわる倫理学」 (担当者: 太田 房雄)
3. 「キャンパスハラスメントを通して「医療従事者の倫理」を考える」 (担当者: 北村 清一郎)
4. 「法規や制度に関する基本的考え方—法医学の立場から」 (担当者: 久保 真一)
5. 「大学における人権問題」 (担当者: 佐野 壽昭)
6. 「組織検体取り扱い上の倫理的問題」 (担当者: 佐野 壽昭)
7. 「食品の機能性・安全性の評価と社会倫理」 (担当者: 寺尾 純二)
8. 「尊厳死や安楽死など生命倫理について」 (担当者: 中條 信義)
9. 「遺伝医学の視点」 (担当者: 中堀 豊)
10. 「先天異常, (or 神経疾患, 家族性腫瘍) の遺伝カウンセリング」 (担当者: 中堀 豊)
11. 「動物実験倫理」 (担当者: 松本 耕三)
12. 「臨床治験に関する倫理」 (担当者: 水口 和生)
13. 「ヒト胚の倫理的な地位」 (担当者: 山野 修司)
14. 「臓器移植の倫理的問題(仮題)」 (担当者: 井藤 久雄・予定)
15. (未定)

【成績評価】 出席状況(厳格にする予定)を踏まえ、さらに小テストないし面接試験で評価することを検討している。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=183005>

【連絡先】

⇒ 山野 (088-633-9083, yamano@medsci.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィス
アワー: 火曜日17:00~18:00(保健学科B棟2階))

臨床心理学

2 単位 (選択) 1 年 (前期)

Clinical Psychology

佐藤 健二・教授 / 人間・自然環境研究科, 山本 真由美・教授, 境 泉洋・准教授, 三留 雅人・教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

【授業目的】 臨床心理学の基礎的理論・技法および今日的課題の概説

【授業概要】 心と身体は密接につながっている。したがって「心の問題」の理解と制御を扱う臨床心理学の基礎の習得は、精神医学・心身医学のみならず、ヘルスバイオサイエンスを基盤とする医学、歯学、薬学、栄養学、保健学領域において重要である。そこで、本講義では、臨床心理学の定義、対象、方法(代表的な心理検査、心理療法)について、初学者を考慮して、その基礎と今日的課題を概説する。心理療法に関しては、医学領域などでエビデンスを示す認知行動療法について詳述する。

【履修上の注意】 e-learning 対応。

【到達目標】 臨床心理学の基礎的理論・技法および今日的課題を説明できる

【授業計画】

1. 臨床心理学の定義と対象 (佐藤)
2. 臨床心理学の測定方法 / パーソナリティ, 知能, 発達等の査定法 (山本)
3. 心理療法の基礎 (1) / 精神分析, 分析心理学 (山本)
4. 心理療法の基礎 (2) クライアント中心療法 (山本)
5. 発達障害と特別支援教育の現状と課題 (山本)
6. 行動理論と行動療法 (境)
7. 認知療法 / うつ病 (境)
8. 認知行動療法 / 不安障害 (境)
9. 臨床心理的地域援助の基礎 (境)
10. 臨床心理的地域援助の実際 / ひきこもり (境)
11. 外傷後ストレス障害の認知行動療法 (佐藤)
12. 摂食障害の認知行動療法 (佐藤)
13. 体重減量・糖尿病の認知行動療法 (佐藤)
14. 歯科心身症の認知行動療法 (佐藤)

【成績評価】 毎回の講義でレポートを提出する。このレポートでは、A4一枚以内で、講義概要を簡単にまとめ、それに対する考察・質問などを15分以内で書くことが求められる。e-learningの場合も同様に、毎回のレポート作成・オンライン提出を求める。また、このレポート提出を以て出席とする。2/3以上の出席が必要。

【再試験】 再試験無し

【教科書】 教科書は使用しない。参考書などは、適宜、授業時に紹介する

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=183024>

【連絡先】

⇒ 三留 (mitome@dent.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 三留:水曜日の12:00~13:00(e-mailにより調整可能))

社会医学・疫学・医学統計入門

2 単位 (選択) 1 年 (後期)

Introduction to social medicine, epidemiology and biostatistics

有澤 孝吉・教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

伊藤 博夫・教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 上野 修一・教授, 上村 浩一・講師 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 木原 勝・教授 / 医療生命薬学専攻

谷岡 哲也・教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 徳村 彰・教授 / 医療生命薬学専攻, 日野出 大輔・教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

森口 博基・教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 楊河 宏章・准教授 / 医学部・歯学部附属病院

【授業目的】 社会医学・薬学, 歯学等に関して, 以下のような諸問題を多方面から概説する. 1. 医療の効果の科学的な分析において必要な医学統計学の基本について概説する. 2. 医療における IT の役割と病院マネジメントについて概説する. 3. 精神保健福祉に関する事象を明らかにするための分析手法を概説する. 4. 口腔の健康を保持増進し, 口腔疾患を予防するために必要な疫学・統計の知識を概説する. 5. 医薬品の情報管理と安全対策はどうあるべきかを理解し, その具対策を概説する. 6. 薬害とは何か, どうして発生したか, どうすれば防止できるか等について概説する. 7. 論文作成のための調査デザイン, 統計解析について概説する.

【授業概要】 1) 臨床試験の意義と実際について, 科学的なデザイン, 倫理的に必要な事項, 日本での臨床試験の現状などの面から概説する. 2) 大学病院における IT の活用事例や病院経営におけるマネジメントの方法について概説する. 3) 精神保健福祉における事象の特徴を統計学的に明らかにするための方法論について, 先行研究も踏まえて説明する. 4) 口腔疾患について, 発生要因の追求や疾病対策の効果判定に関する事例をまじえながら教授し, 科学的根拠に基づいた口腔疾患の予防法を概説する. 5) 患者の権利として要求される医療 (医薬品) 情報開示・提供に際しての情報管理の在り方や医薬品の安全対策とリスクマネジメントの具体論等を概説する. 6) 多くの薬害事例について, それらの発生要因や背景を考察し, 薬害を如何に防止するかを考える. 7) データの種類および取り扱い, 統計的検定の意味など, 統計解析の基本について概説する. また, SPSS を用いたデータ解析の実習を行う.

【履修上の注意】 講義は e-learning 化しているので, e-learning 学習も出席として取り扱う.

【到達目標】 社会医学・薬学・歯学等に関して, 授業目的に示した講義内容の理解が深まることを目標にする.

【授業計画】

1. 論文作成のためのデータの基本的な取り扱いと統計解析について (担当者: 上村 浩一)
2. 論文作成のためのデータの基本的な取り扱いと統計解析について (担当者: 上村 浩一)
3. 学位論文作成のための疫学, 統計解析の実際 (SPSS) (担当者: 有澤 孝吉)

4. 学位論文作成のための疫学, 統計解析の実際 (SPSS) (担当者: 有澤 孝吉)
5. 臨床試験の意義と実際について (担当者: 楊河 宏章)
6. 臨床試験の意義と実際について (担当者: 楊河 宏章)
7. 病院における IT の役割 I (担当者: 森口 博基)
8. 病院における IT の役割 II (担当者: 森口 博基)
9. 精神保健福祉に関する問題の統計学的分析手法 (担当者: 上野 修一)
10. 精神保健福祉に関する問題の統計学的分析手法 (担当者: 谷岡 哲也)
11. 齲蝕・歯周病の疫学, 口腔疾患と全身の健康 (担当者: 伊藤 博夫)
12. 齲蝕・歯周病の疫学, 口腔疾患と全身の健康 (担当者: 日野出 大輔)
13. 医薬品の情報管理, 医薬品の安全対策 (担当者: 木原 勝)
14. 医薬品の情報管理, 医薬品の安全対策 (担当者: 木原 勝)
15. 薬害とは何か, なぜ起こるのか, どうすれば薬害を防げるか (担当者: 徳村 彰)
16. 薬害とは何か, なぜ起こるのか, どうすれば薬害を防げるか (担当者: 徳村 彰)

【成績評価】 講義中に提示した課題についてレポートを提出する. 各講師の先生の出席点・評点を総合的に考慮して決定する.

【再試験】 再試験は基本的には行わない.

【教科書】 各講師の指定した教材を使用する.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=182885>

【連絡先】

⇒ 有澤 (088-633-7071, arisawa@basic.med.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: e-mailにてアポイントメントを取り, 面談してください.)

【備考】 講師の先生によって講義をする場所が異なるので注意すること.

英語論文作成入門

2 単位 (選択) 1 年 (後期)

Introduction to How to Write Up Scientific Manuscript in English

市原明・肩書, 富田修平・教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

梶龍児・教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 林良夫・教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 福井清・教授/疾患酵素学研究センター

中屋豊・教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 岡崎拓・教授/疾患ゲノム研究センター, 樋口富彦・教授/医療生命薬学専攻, 長篠博文・教授/大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

片岡英樹・非常勤講師

【授業目的】 21世紀に医学, 歯学, 薬学, 栄養学, 保健学の各分野で活躍する人材は英語が堪能であることが要求される。本授業ではこれらの領域で用いられる独特の英語表現法に関わる基本的知識を修得することを目的とする。

【授業概要】 研究成果を国際的な学術雑誌に発表したり, 海外の学会やシンポジウムで発表や講演をしたりすることは, 研究者養成を目的とする大学院教育において必須の履修目標である。そこで, 本授業では医学英語論文, 用紙の作成方法について系統的な講義をビデオ並びにマルチメディア教材等を積極的に活用しながら行う。更に, 医科学用英語の聴き取り及び英語による討論の訓練を行い, 発表技術の向上を目指す。

【履修上の注意】 1) 授業は後期のみに関講される。時間帯は原則的に火曜日の午後であるが, 講師の事情等により変更されることがある。2) 講義の一部は e-learning 化されているので, e-learning 学習も出席として取り扱う。3) 20分以上の遅刻は出席と見なさない。

【授業計画】

1. 生物医学雑誌投稿に要求される条件 (I) (担当者: 福井 清)
2. 生物医学雑誌投稿に要求される条件について (II) (担当者: 福井 清)
3. 研究, 論文, 学会発表の進め方 (I) (担当者: 市原 明)
4. 研究, 論文, 学会発表の進め方 (II) (担当者: 市原 明)
5. 国際派研究者のためのテクニカル・ライティング (担当者: 片岡 英樹)
6. 論文投稿申込書, 経歴書, 研究計画書, 履歴書などの書き方 (I) (担当者: 長篠 博文)
7. 論文投稿申込書, 経歴書, 研究計画書, 履歴書などの書き方 (II) (担当者: 長篠 博文)
8. 学会口演要旨作成上の留意点について実例をまじえて (担当者: 富田 修平)
9. 論文作成に役立つコンピュータの利用法—実例を示した結果, 考察の書き方— (担当者: 中屋 豊)
10. 英語による PowerPoint presentation についての要点 (担当者: 梶 龍児)
11. 英語論文の特性と日本語論文との比較 (担当者: 林 良夫)
12. 医学英語 15 のポイント (I) (担当者: 樋口 富彦)
13. 医学英語 15 のポイント (II) (担当者: 樋口 富彦)
14. 口頭による英語発表と短報の書き方に関する基本を講義する I (担当者: 岡崎 拓)
15. 口頭による英語発表と短報の書き方に関する基本を講義する II (担当者: 岡崎 拓)

【成績評価】 講義への出席, 随時の試験, 受講態度を総合して行う。2/3 以上の出席がなければ不合格とする。再試験はない。

【教科書】 なし

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=183026>

心身健康と環境ストレス

2 単位

Psychosomatic health and environmental stress

武田 英二・教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

【授業目的】 心身の健康におよぼす社会や家庭をはじめとする日常生活で生ずるストレスの影響について学習させる。心身の発育・発達を制御する栄養や睡眠、ストレスによる遺伝子発現調節をはじめとするシステム生物学的解析、健康者のストレス応答および病的ストレス応答と子どもの成長、等に関する知識、活用法、評価技術、等を学習し理解する。

【授業概要】 種々の環境ストレスが子どもの身体および精神の発育・発達に影響をおよぼすことが明らかになっている。これらに関して、システム生物学、臨床神経学、栄養科学、ストレスゲノミクス、遺伝学、精神医学等の専門分野で得られている最新情報や評価方法を教授する。それぞれの専門に基づいた講義をオムニバス方式で行い健康増進法および疾患治療法を考えさせることによって学生の潜在能力を活性化する。

【キーワード】 心身健康、環境、ストレス

【授業計画】

1. システム生物学の基礎 (担当者: 岡崎紀明)
2. システム生物学の展開 (担当者: 岡崎紀明)
3. 臨床神経学 (担当者: 梶 龍児)
4. 生体のストレス応答の仕組み (担当者: 六反 一仁)
5. ストレスゲノミクス (担当者: 六反 一仁)
6. 時計遺伝子と代謝機構 (担当者: 勢井 宏義)
7. 脳内脂質代謝機構と行動・睡眠調節 (担当者: 勢井 宏義)
8. 栄養と脳変性疾患 (担当者: 後藤 恵)
9. 神経精神症状と脳回路異常 (担当者: 後藤 恵)
10. 医薬・食品化合物の構造と活性・機能の相関 (担当者: 中馬 寛)
11. プリオンの神経ストレス (担当者: 坂口 末廣)
12. 日本食とストレス (担当者: 武田 英二)
13. 不安とうつ病 (担当者: 大森 哲郎)
14. ヒト疾患の遺伝学 (担当者: 田宮 元)
15. ヒト疾患のゲノム研究 (担当者: 田宮 元)
16. レポート (担当者: 武田 英二)

【成績評価】 受験資格 (三分の二以上の出席など) を満たした者のみを対象としたレポート。

【再試験】 再試験無し

【参考書】 授業時に適宜、紹介する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185446>

生命科学の研究手法

2 単位

羽地 達次・教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

【授業目的】 大学院に進学した直後の院生に生命科学に関する基礎的な実験方法を理解させる。

【授業概要】 実験動物の取り扱い方、細胞と器官の培養方法とその応用、蛋白質の取り扱い方とその解析方法、遺伝子解析の方法とその応用、抗体を用いた研究方法とその蛋白質、免疫組織細胞化学に対する応用、数理モデルによる生体機能発現機構の解明等生命科学の基礎的な研究技法を講義する。

【キーワード】 生命科学, 実験手法

【履修上の注意】 受講生は必ず出席すること。

【到達目標】 現在行われている生命科学研究方法の基礎を大学院進学直後に理解し、研究生活にスムーズに入れるようにする。

【授業計画】

1. 大学院に入学直後に現在用いられている研究手法を集中的に講義する。
 1. 授業ガイダンスと生命科学の研究手法総論 (羽地, 研究部長)
 2. 実験動物を利用した研究 (松本)
 3. 細胞と器官の培養 (羽地)
 4. (宮本)
 5. 蛋白研究 1(福井清)
 6. 蛋白研究 2(藤原)
 7. 抗体を用いた生化学的研究方法 (二川, 山本)
 8. 抗体を用いた研究の臨床応用 (中屋)
 9. 免疫学研究の基礎 (安友)
 10. 免疫学研究の最近の進歩 (安友)
 11. 遺伝子解析 1(福井裕)
 12. 遺伝子解析 2(伊藤)
 13. 遺伝子解析 3(高濱)
 14. 遺伝子解析 4(高濱)
 15. 数理モデルによる生命機能の解析 (吉永)

【成績評価】 出席状況, 受講態度, レポート等により総合的に判定する。

【再試験】 しない

【教科書】 指定しないが, 講義の都度プリント等資料を配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=185447>

【連絡先】

⇒ 羽地達次 メールアドレス:tat-hane@dent.tokushima-u.ac.jp

臨床薬理学入門

2 単位 (選択) 毎年 (後期)

Introduction to Clinical Pharmacology

玉置 俊晃(授業責任者)・教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部, 滝口 祥令・教授 / 医療生命薬学専攻

際田 弘志・教授 / 医療生命薬学専攻, 土屋 浩一郎・教授 / 医療生命薬学専攻, 山内 あい子・准教授 / 医療生命薬学専攻, 富田 修平・准教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

【授業目的】 薬の効果に個人差が生じる要因を理解し、有効で安全な医薬品の適正な使用方法に関する基本事項を身につける。

【授業概要】 人々の病気の治療・予防に多大な役割を担っている薬物をより有効に、かつ安全に使うために、薬物の人体における作用と生体内動態に影響を及ぼす諸因子について解説し、モデル式を利用した科学的評価に基づく薬物療法について講義する。また、具体的な疾患に対する薬物療法の現状と問題点や薬害についても解説する。

【履修上の注意】 講義の一部は e-learning 化する予定である。e-learning 学習も出席として取り扱う。

【授業計画】

1. 授業ガイダンス+臨床薬理学序論 (担当者: 玉置 俊晃)
2. 薬物動態の原理 (担当者: 富田 修平)
3. 薬物の体内動態 (担当者: 富田 修平)
4. 薬物のバイオアベイラビリティ (担当者: 際田 弘志)
5. TDM の実践 (担当者: 滝口 祥令)
6. P450 と薬物相互作用 (担当者: 富田 修平)
7. 薬物相互作用 (担当者: 玉置 俊晃)
8. 腹痛と治療薬 (担当者: 玉置 俊晃)
9. 高血圧治療薬 (担当者: 玉置 俊晃)
10. かぜ薬 (担当者: 玉置 俊晃)
11. 抗酸化薬 (担当者: 土屋 浩一郎)
12. 薬物と健康食品 (担当者: 玉置 俊晃)
13. 薬害 (担当者: 玉置 俊晃)
14. 妊婦・授乳婦と医薬品情報 (担当者: 山内 あい子)
15. 臨床試験と生命倫理 (担当者: 玉置 俊晃)

【成績評価】 出席状況と小テストまたはレポート等により評価する。12 回以上の出席が必要。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=183025>

【連絡先】

- ⇒ 玉置 (088-633-7061, tamaki@basic.med.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 面談希望教員に e-mail にて時間調節の上, 面談して下さい。)
- ⇒ 滝口 (088-633-7466, takiguti@ph.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 面談希望教員に e-mail にて時間調節の上, 面談して下さい。)

⇒ 際田 (088-633-7259, hkiwada@ph.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 面談希望教員に e-mail にて時間調節の上, 面談して下さい。)

⇒ 土屋 (薬物機能制御学講座, 088-633-7250, tsuchiya@ph.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 面談希望教員に e-mail にて時間調節の上, 面談して下さい。)

⇒ 山内 (088-633-7266, aiko@ph.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 面談希望教員に e-mail にて時間調節の上, 面談して下さい。)

⇒ 富田 (207, 088-633-6071, tomita@basic.med.tokushima-u.ac.jp) MAIL

ゲノム創薬特論

2 単位 (選択) 毎年 (前期)

Genomic Drug Discovery

伊藤 孝司(授業責任者)・教授 / 創薬科学専攻, 板倉 光夫・教授 / 疾患ゲノム研究センター, 玉置 俊晃・教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

佐野 茂樹・教授 / 創薬科学専攻

【授業目的】 ゲノム創薬の考え方と実際について学ぶ。

【授業概要】 マイクロサテライトと単一ヌクレオチド多型を含ゲノム塩基配列に関する多型情報を用い, 単一遺伝子の原因遺伝子と多遺伝子疾患の疾患感受性遺伝子とその多型を明らかに出来る。またゲノム情報と疾患メタボロームとの相関, および疾患治療の分子標的の構造と機能に関する情報に基づく「ゲノム創薬」と創薬の歴史や創薬の実際について講義する。

【履修上の注意】 講義の一部は e-learning 化を予定しているのので, e-learning 学習も出席として取り扱う。

【授業計画】

1. 授業ガイダンス+創薬の歴史 (担当者: 玉置 俊晃)
2. ゲノム情報の現状 (担当者: 板倉 光夫)
3. 一遺伝子疾患の原因遺伝子の探索 (担当者: 板倉光夫)
4. 疾患モデル動物を用いた疾患感受性遺伝子の探索 (担当者: 板倉 光夫)
5. 患者を対象とする解析とゲノム創薬 (担当者: 板倉 光夫)
6. グライコサイエンスの基礎と現状 (担当者: 伊藤 孝司)
7. グライコバイオロジーと疾患 (担当者: 伊藤 孝司)
8. グライコサイエンスと創薬(トピックス I) (担当者: 伊藤 孝司)
9. グライコサイエンスと創薬(トピックス II) (担当者: 伊藤 孝司)
10. 有機化学を基盤とする創薬化学の概要 (担当者: 佐野 茂樹)
11. 創薬に役立つクスリの化学, 常用医薬品の分子構造特性 (担当者: 佐野 茂樹)
12. ポストゲノム時代の創薬研究 (1) (担当者: 佐野 茂樹)
13. ポストゲノム時代の創薬研究 (2) (担当者: 佐野 茂樹)
14. 新薬の開発 (担当者: 玉置 俊晃)
15. 臨床試験 (担当者: 玉置 俊晃)

【成績評価】 出席により評価する。12 回以上出席すること。欠席する場合は, 担当教員が指定する課題についてレポートを提出することにより出席と認定する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=182890>

【連絡先】

⇒ 伊藤 (薬科学教育部附属医薬創製教育研究センター 2 階・創薬生命工学分野教授室, 088-633-7290, kitoh@ph.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: E-mailで質問等を受付け, 必要があれば面談する。)

⇒ 板倉 (306, 088-633-9454, itakura@genome.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: E-mailで質問等を受付け, 必要があれば面談する。)

⇒ 玉置 (088-633-7061, tamaki@basic.med.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: E-mailで質問等を受付け, 必要があれば面談する。)

⇒ 佐野 (薬学部本館 6 階東, 088-633-7273, ssano@ph.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: E-mailで質問等を受付け, 必要があれば面談する。)

健康食品・漢方

Health food and herbal medicine

2単位 (選択) 毎年 (後期)

高石 喜久(授業責任者)・教授 / 創薬科学専攻, 寺尾 純二・教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

武田 英二・教授 / 大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

【授業目的】 健康食品・漢方・天然薬物に関する正しい知識と、適正な使用方法に関する基本事項を身につける。

【授業概要】 人々の病気の治療・予防に大きな役割を担っている健康食品・漢方薬・天然薬物をより有効に、かつ安全に使うために、健康食品の法律と制度、現状と問題点、健康食品の素材と機能成分、栄養補助食品、特定保健用食品、漢方薬とサプリメント、天然薬物と生薬、天然物化学研究と医薬品開発等について講義する。

【履修上の注意】 事情により講義に出席が困難な人(社会人大学院生、就職活動等)は担当教員にメールで連絡下さい。場合に依りましては考慮します。

【授業計画】

1. 天然薬物・生薬 (担当者: 高石 喜久)
2. 漢方薬とサプリメント (担当者: 高石 喜久)
3. 天然薬物からシード化合物の探索研究 (担当者: 高石 喜久)
4. 天然物化学研究と医薬品開発 (担当者: 高石 喜久)
5. 総合討論「漢方・天然薬物について」 (担当者: 高石 喜久)
6. 健康食品の法律と制度 (担当者: 寺尾 純二)
7. 栄養学から見た健康食品の現状と問題点 (担当者: 寺尾 純二)
8. 健康食品の素材と機能成分 (1) (担当者: 寺尾 純二)
9. 健康食品の素材と機能成分 (2) (担当者: 寺尾 純二)
10. 総合演習 (担当者: 寺尾 純二)
11. 栄養補助食品 / サプリメントとしてのビタミン類, ミネラル類 (担当者: 武田 英二)
12. 特定保健用食品 / プロバイオティクス, プレバイオティクス (担当者: 武田 英二)
13. 特定保健用食品 / 脂質代謝調節食品 (担当者: 武田 英二)
14. 特定保健用食品 / 骨, 血圧, 血糖調節食品 (担当者: 武田 英二)
15. 総合討論 (担当者: 武田 英二)

【成績評価】 出席状況とレポート等により評価する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=182854>

【連絡先】

⇒ 高石 (088-633-7275, takaishi@ph.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 木曜日12:00—13:00又はメールにより時間調整。他の教員についてもメールにて時間調整の上、面談して下さい。)

薬品物理化学特論**Physical Chemistry**

2 単位 毎年 (後期)

中馬 寛 (授業責任者)・教授 / 創薬科学専攻

【授業目的】 学部 4 年次までの物理化学等の基礎知識を前提に、生体関連分子の機能・活性・構造の電子・分子レベルからの解析方法に基づいた論理的創薬の考え方を習得する。また論理的創薬における最新の研究・開発の動向を紹介する。

【授業概要】 論理的創薬に必要な理論化学の基礎知識の習得、応用および最新の論理的創薬の実例の紹介をする。

【履修上の注意】 講義の一部は受講生の発表形式で行う。e-learning も今後取り扱う予定である。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 分子科学計算概説
3. 分子力学法
4. 分子動力学法
5. 分子軌道法 (1)
6. 分子軌道法 (2)
7. 分子軌道法 (3)
8. 分子科学計算による創薬へ論理的アプローチの実例 (1)
9. 分子科学計算による創薬へ論理的アプローチの実例 (2)
10. 分子科学計算による創薬へ論理的アプローチの実例 (3)
11. 定量的構造活性相関解析概説 (レポート)
12. 創薬へ定量的構造活性相関解析の応用の実例 (1)
13. 創薬へ定量的構造活性相関解析の応用の実例 (2)
14. 創薬へ定量的構造活性相関解析の応用の実例 (3)
15. 講義のまとめ
16. 定期試験 (最終レポート)

【成績評価】 発表内容およびレポート等により評価する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=182869>

【連絡先】

⇒ 中馬 (088-633-7257, hchuman@ph.tokushima-u.ac.jp) **MAIL** (オフィスアワー: 講義終了後1時間ほど (e-mail により時間調節を適宜行う場合もあります))

【備考】

- ◇ 参考文献等は随時指示、また必要なプリントを随時配付する。
- ◇ 平成 21 年度後期開講

製剤学特論

Physical Pharmacy

2 単位 毎年 (前期)

植野 哲・准教授 / 創薬科学専攻

【授業目的】 前半では、コロイド・界面化学、微小分散系及び分子間相互作用から見た製剤学の基本事項を修得する。

後半では、細胞内への高分子薬物の導入に関する基本事項を修得する。

【授業概要】 前半: 生体の軟組織は蛋白質等の生体高分子と低分子との複合体であり、硬組織はヒドロキシアパタイトと低分子及び高分子との複合材料である。薬物送達系もゲル構造をとる高分子マトリックスを利用した高分子と低分子の複合系とみなせる。このような背景を意識して広い視野に立ち、微小分散系、高分子/低分子及び有機化合物/無機化合物複合体形成と相互作用について、製剤学の見地から解説する。

後半: 遺伝子治療の進展と共に細胞内へ遺伝子や、たんぱく質といった高分子物質 (高分子薬物) を導入し疾病の治療を行う事が検討され、実際に行われている。細胞内への高分子薬物の導入にあたって薬物の生体膜透過が非常に重要なステップとなっている。この高分子薬物の生体膜透過について 1) 遺伝子治療 2) タンパク質の様な遺伝子以外の高分子薬物の場合について解説する。

【キーワード】 超分子複合体, 自己組織化, 粒子分散系, ナノ材料, 膜透過

【履修上の注意】 毎回出席を取ります。遅刻せぬよう、欠席なきように願います。

【授業計画】

1. 有機・無機ナノ材料の展望 1
2. 有機・無機ナノ材料の展望 2
3. 粒子分散系によるナノコンポジットの創製 1
4. 粒子分散系によるナノコンポジットの創製 2
5. 自己組織化による有機無機超分子複合体の創製 1
6. 自己組織化による有機無機超分子複合体の創製 2
7. 微小分散系 (微小液体粒子, 微小固体粒子, 微小気泡) の製剤学への応用 1
8. 微小分散系 (微小液体粒子, 微小固体粒子, 微小気泡) の製剤学への応用 2
9. ウイルス性ベクターによる遺伝子治療 1
10. ウイルス性ベクターによる遺伝子治療 2
11. 非ウイルス性ベクターによる遺伝子治療 1
12. 非ウイルス性ベクターによる遺伝子治療 2
13. エンドサイトーシス経路による高分子薬物の生体膜透過
14. 非エンドサイトーシス経路による高分子薬物の生体膜透過 1
15. 非エンドサイトーシス経路による高分子薬物の生体膜透過 2

【成績評価】 出席と課題レポートの内容によって評価します。

【教科書】 講義は配布資料に基づいて行います。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=182876>

【連絡先】

⇒ 植野 (088-633-7268, sueno@ph.tokushima-u.ac.jp) **MAIL**

【備考】 平成 22 年度開講

薬品分析学特論

2 単位 毎年 (前期)

Advanced Analytical Chemistry

田中 秀治(授業責任者)・教授 / 創薬科学専攻, 竹内 政樹・准教授 / 創薬科学専攻

【授業目的】 薬物や環境汚染物質などの濃度を各種分析装置を用いて自動連続測定(自動分析法, フロー分析法)するための基礎と応用について講義する。

【授業概要】 前半は, コンピュータを用いて制御と計測を行うために必要な基礎知識, およびフロー分析法の基礎と応用について講義する。後半は, 環境汚染物質が人体・自然環境に及ぼす影響と最新の分析技術について講義する。

【キーワード】 分析科学, 自動化分析, フロー分析, 環境汚染物質

【履修上の注意】 本年度は e-learning 化を行う予定はない。

【授業計画】

1. 分析法の自動化 (担当者: 田中秀治)
2. フローインジェクション分析法とその関連法 (担当者: 田中秀治)
3. フロー分析法の応用 (担当者: 田中秀治)
4. デジタル信号処理 (担当者: 田中秀治)
5. 周波数解析 (担当者: 田中秀治)
6. フィードバック制御フローレイショメトリー (担当者: 田中秀治)
7. 振幅変調多重化フロー分析法 (担当者: 田中秀治)
8. 大気分析 1) ガス状汚染物質 (担当者: 竹内政樹)
9. 大気分析 2) 粒子状汚染物質 (担当者: 竹内政樹)
10. 屋内空気分析 (担当者: 竹内政樹)
11. 呼気分析 (担当者: 竹内政樹)
12. 環境汚染物質 1) 二酸化炭素 (担当者: 竹内政樹)
13. 環境汚染物質 2) 過塩素酸 (担当者: 竹内政樹)
14. 環境汚染物質 3) ヒ素 (担当者: 竹内政樹)
15. 総括 (担当者: 田中秀治, 竹内政樹)
16. 試験 (担当者: 田中秀治, 竹内政樹)

【成績評価】 出席状況と試験により評価する。

【教科書】 指定しない

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=182850>

【連絡先】

⇒ 田中 (教授室, 088-633-7285, htanaka@ph.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金の8:30~ 12:00, 13:00~ 17:30)

⇒ 竹内 (088-633-7286, takeuchi@ph.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月~ 金の8:30~ 12:00, 13:00~ 17:30)

【備考】

- ◇ 質問は電子メールでも受け付けるが, 件名に「薬品分析学特論」と記すこと。
- ◇ 平成 22 年度開講

薬化学特論

Molecular Medicinal Chemistry

2 単位 毎年 (後期)

佐野 茂樹 (授業責任者)・教授 / 創薬科学専攻

【授業目的】薬学系独自の特色ある創造性豊かな創薬化学研究を展開するうえで、創薬化学研究者として必要とされる基礎知識と応用能力の習得を目的とする。

【授業概要】医薬品リード化合物を分子設計し合成開発するために必要不可欠な、ヘテロ環化合物を中心とした創薬のための基礎化学、ならびに分子構造特性やベータラクタム系抗菌剤などに関する応用化学について講義する。

【履修上の注意】講義は集中講義形式で行う予定。最終回の講義終了時に試験問題を配付する。「自ら学ぶ」という積極的な姿勢を期待する。

【授業計画】

1. 授業ガイダンスおよび創薬のための基礎化学概説 (担当者: 佐野 茂樹)
2. 創薬のための基礎化学 1 / ピリジンおよび関連ヘテロ環化合物の化学 (担当者: 佐野 茂樹)
3. 創薬のための基礎化学 2 / ピロールおよび関連ヘテロ環化合物の化学 (担当者: 佐野 茂樹)
4. 創薬のための基礎化学 3 / 含酸素および含硫黄ヘテロ環化合物の化学 (担当者: 佐野 茂樹)
5. 創薬のための基礎化学 4 / ヘテロ環化合物の立体化学 (担当者: 佐野 茂樹)
6. 創薬のための基礎化学 5 / オレフィン形成反応 (担当者: 佐野 茂樹)
7. 創薬のための基礎化学 6 / オレフィン形成反応 (担当者: 佐野 茂樹)
8. 創薬のための基礎化学 7 / 酵素反応 (担当者: 佐野 茂樹)
9. 創薬のための基礎化学 8 / 酵素反応 (担当者: 佐野 茂樹)
10. 創薬のための応用化学概説 (担当者: 佐野 茂樹)
11. 創薬のための応用化学 1 (担当者: 外部講師)
12. 創薬のための応用化学 2 (担当者: 外部講師)
13. 創薬のための応用化学 3 (担当者: 外部講師)
14. 創薬のための応用化学 4 (担当者: 外部講師)
15. 創薬のための応用化学 5 (担当者: 外部講師)

【成績評価】出席状況とレポート試験により評価する。

【教科書】必要に応じて講義資料を配付するとともに、参考書等を紹介する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=182867>

【連絡先】

- ⇒ 佐野 (薬学部本館 6 階東, 088-633-7273, ssano@ph.tokushima-u.ac.jp) MAIL
(オフィスアワー: 随時)
- ⇒ (研究室)薬学部・分子創薬化学研究室(本館6階東)
(研究室のホームページ)<http://www.ph.tokushima-u.ac.jp/?&rf=116>
(Eメールアドレス)ssano@ph.tokushima-u.ac.jp

【備考】平成 22 年度後期開講

薬品合成化学特論**Medicinal Chemistry**

2 単位 毎年 (後期)

大高 章(授業責任者)・教授 / 創薬科学専攻, 根本 尚夫・准教授 / 創薬科学専攻

【授業目的】 生体を化学を利用して理解する上で必要な有機化学について基礎知識を身につけさせる。

【授業概要】 近年, 化学を利用して生命を理解しようとする学問分野 “Chemical Biology” が非常に注目を集めています。生体现象を化学的に理解するための基礎知識としてのアミノ酸, ペプチド, タンパク質化学および創薬を支援する機能分子について解説します。

【履修上の注意】 e-learning 化には対応していない

【授業計画】

1. Chemical Biology 入門 (担当者: 大高 章)
2. Chemical Biology 入門 (担当者: 大高 章)
3. アミノ酸の化学 (担当者: 大高 章)
4. ペプチド・タンパク質化学 (担当者: 大高 章)
5. ペプチド・タンパク質化学 (担当者: 大高 章)
6. ペプチド・タンパク質を作る (担当者: 大高 章)
7. ペプチド・タンパク質を使う (担当者: 大高 章)
8. ペプチド・タンパク質を使う (担当者: 大高 章)
9. Forward Chemical Genetics (担当者: 大高 章)
10. Reverse Chemical Genetics (担当者: 大高 章)
11. 酵素化学 (担当者: 大高 章)
12. 創薬支援分子 (担当者: 根本 尚夫)
13. 創薬支援分子 (担当者: 根本 尚夫)
14. 創薬支援分子 (担当者: 根本 尚夫)
15. 創薬支援分子 (担当者: 根本 尚夫)

【成績評価】 出席状況とレポート

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=182868>

【連絡先】

- ⇒ 大高 (aotaka@ph.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: いつでも結構です)
- ⇒ 根本 (088-633-7284, nem@ph.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: いつでも結構です)

【備考】

- ◇ 随時プリントなどを配布
- ◇ 平成 21 年度前期開講

薬品製造化学特論

Pharmaceutical Organic Chemistry

2 単位 毎年 (後期)

落合 正仁(授業責任者)・教授/創薬科学専攻, 宮本 和範・助教/創薬科学専攻

【授業目的】 環境に調和しつつ資源の再活用・持続的利用を可能とする高選択的有機合成化学反応(精密薬品製造化学反応)を理解し, 創薬化学研究の第一線で活躍するための基礎を身につけます。

【授業概要】 学部の講義で学んだ炭素を中心とする第二周期元素化合物の化学を超えた有機合成化学を学習します。octet 則に従う有機化合物とは原子価が本質的に異なる超原子価ヘテロ原子化合物の結合論・反応特性・構造特性について学びます。また, 超原子価結合を活用する高度に選択的な環境調和型薬品製造化学反応, 反応活性種の化学, 超分子化学種(クラウンエーテルやシクロデキストリンなど)の触媒作用と機能についても講義します。

【キーワード】 超原子価結合, 超脱離基, 超分子, カルベン, ヨウ素

【先行科目】 『薬化学特論』(1.0), 『薬品合成化学特論』(1.0)

【関連科目】 『植物環境資源学特論』(1.0)

【履修上の注意】 対話形式の講義。議論・質問・討論を重視します。

【授業計画】

1. 超原子価結合の化学 / なぜ超原子価結合論か? (担当者: 落合 正仁)
2. 超原子価結合の化学 / 超脱離能とその起源 (担当者: 落合 正仁)
3. 超原子価結合の化学 / 配位子交換反応とトランス影響 (担当者: 落合 正仁)
4. 超原子価結合の化学 / リガンドカップリングとその機構 (担当者: 落合 正仁)
5. 超原子価結合の化学 / オレフィン SN2 反応は可能か? (担当者: 落合 正仁)
6. 超原子価結合の化学 / [3,3]-シグマトロピー転位 (担当者: 落合 正仁)
7. 超原子価結合の化学 / 超原子価ヨウ素と触媒的酸化反応 (担当者: 落合 正仁)
8. 反応活性種の化学 / 不安定イリドと有機合成反応 (担当者: 落合 正仁)
9. 反応活性種の化学 / アルキリデンカルベンの 1,5 C-H 挿入反応 (担当者: 落合 正仁)
10. 反応活性種の化学 / アルキリデンカルベンの 1,2 転位 (担当者: 落合 正仁)
11. 反応活性種の化学 / ラジカルと有機合成反応 (担当者: 落合 正仁)
12. 反応活性種の化学 / カルボカチオンの化学 (担当者: 落合 正仁)
13. 超分子の化学 / クラウンエーテルの化学 (1) (担当者: 宮本 和範)
14. 超分子の化学 / クラウンエーテルの化学 (2) (担当者: 宮本 和範)
15. 超分子の化学 / クラウンエーテルの化学 (3) (担当者: 宮本 和範)

【成績評価】 出席状況, 議論・質問の内容及びレポート等により評価します。

【教科書】 使用しない。資料(プリント)を配布します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=182870>

【連絡先】

⇒ 落合 (088-633-7281, mochiai@ph.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: いつでもどうぞ。)

⇒ 宮本 (088-633-9532, kmiya@ph.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: いつでもどうぞ。)

【備考】 平成 21 年度後期開講

生薬学特論

2 単位 毎年 (前期)

Pharmacognosy and Natural Products Chemistry

高石 喜久(授業責任者)・教授 / 創薬科学専攻, 柏田 良樹・准教授 / 創薬科学専攻

【授業目的】 生薬, 薬用植物など天然医薬品素材を理解し, それらについての現状と将来, 研究方法, 最新の研究動向に関する基本事項を身につける.

【授業概要】 人々の病気の治療・予防に大きな役割を担っている天然医薬品素材 (生薬, 薬用植物, 漢方薬, 健康食品) を私たちの生活に役立てるための知識, 天然医薬品から近代的医薬品を開発する方法論・研究例, 民族薬物学, 天然物化学の研究, 当研究室の研究等について解説する.

【授業計画】

1. 授業ガイダンス+生薬・薬用植物総論 (担当者: 高石 喜久)
2. 医薬品としての天然医薬品素材 (担当者: 高石 喜久)
3. 天然医薬品素材から開発された医薬品 (担当者: 高石 喜久)
4. ルネッサンスを迎えた天然物化学 (担当者: 高石 喜久)
5. 代替医療と生薬・薬用植物・漢方 (担当者: 高石 喜久)
6. 民族薬物調査, その1 (担当者: 高石 喜久)
7. 民族薬物調査, その2 (担当者: 高石 喜久)
8. 最新の天然医薬品開発研究の動向, その1 (担当者: 高石 喜久)
9. 最新の天然医薬品開発研究の動向, その2 (担当者: 高石 喜久)
10. 生薬「雷公藤」の研究, その1 (担当者: 高石 喜久)
11. 生薬「雷公藤」の研究, その2 (担当者: 高石 喜久)
12. 天然物化学に関する最新の研究例 (担当者: 柏田 良樹)
13. 天然医薬品素材から坑 HIV 薬の開発研究, その1 (担当者: 柏田 良樹)
14. 天然医薬品素材から坑 HIV 薬の開発研究, その2 (担当者: 柏田 良樹)
15. 総合討論 (担当者: 高石 喜久, 柏田 良樹)

【成績評価】 出席状況と小テストまたはレポートにより評価する.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=182861>

【連絡先】

⇒ 高石 (088-633-7275, takaishi@ph.tokushima-u.ac.jp) **MAIL** (オフィスアワー: 講義日の12:00~ 13:00又はe-mailにより時間調整を行います).)

⇒ 柏田 (kasiwada@ph.tokushima-u.ac.jp) **MAIL** (オフィスアワー: 講義日の12:00~ 13:00又はe-mailにより時間調整を行います).)

【備考】

- ◇ 随時プリントを配布
- ◇ 平成 21 年度後期開講

植物環境資源学特論

2 単位 毎年 (前期)

Synthetic Strategies of Biologically Active Natural Products

宍戸 宏造(授業責任者)・教授 / 創薬科学専攻, 吉田 昌裕・准教授 / 創薬科学専攻, 非常勤講師

【授業目的】 創薬研究に欠かせない標的化合物指向型有機合成化学の基礎, 方法論および応用展開を学ぶ。

【授業概要】 重要な生理活性を持つ微量天然物を範として創薬研究を行うためには, 合成化学の力を借りて目的とする化合物を得なければならない。この講義では, 標的化合物の設定からスタートし, 合成戦略の立て方, 実際の合成法, 更には最新の有機反応の紹介とその有機合成への応用展開について講術する。また応用展開として, 医薬品シーズの探索から医薬品の合成プロセスへと至る流れについても解説する。

【履修上の注意】 e-learning は取り入れない。

【授業計画】

1. 授業ガイダンスと標的指向型有機合成化学の概要 (担当者: 宍戸)
2. 生理活性天然物の全合成-1 (担当者: 宍戸)
3. 生理活性天然物の全合成-2 (担当者: 宍戸)
4. 有機合成反応開発と医薬品創製への応用-1 (担当者: 吉田)
5. 有機合成反応開発と医薬品創製への応用-2 (担当者: 吉田)
6. 有機合成反応開発と医薬品創製への応用-3 (担当者: 吉田)
7. 生理活性分子の合成-1 (担当者: 外部講師)
8. 生理活性分子の合成-2 (担当者: 外部講師)
9. 生理活性分子の合成-3 (担当者: 外部講師)
10. 生理活性分子の合成-4 (担当者: 外部講師)
11. 生理活性分子の合成-5 (担当者: 外部講師)
12. 医薬品化学-1 (担当者: 外部講師)
13. 医薬品化学-2 (担当者: 外部講師)
14. 医薬品化学-3 (担当者: 外部講師)
15. 有機合成反応開発 (担当者: 外部講師)

【成績評価】 出席状況とレポート等により行う。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=182857>

【連絡先】

⇒ 宍戸 (附属医薬創製教育研究センター 4F, 088-633-7287, shishido@ph.tokushima-u.ac.jp) **MAIL** (オフィスアワー: 金曜日の10時~12時(調節可, メールで問合せること))

⇒ 吉田 (088-633-7294, yoshida@ph.tokushima-u.ac.jp) **MAIL** (オフィスアワー: 金曜日の10時~12時(調節可, メールで問合せること))

【備考】

- ◇ 平成 22 年度前期開講
- ◇ 講義は随時プリントを配布, もしくはパワーポイントを使用する。

海洋環境資源学特論**Marine Natural Products as Drug Resources**

2 単位 毎年 (前期)

大井 高 (授業責任者)・准教授 / 創薬科学専攻

【授業目的】 日常生活では目に触れることがない珍しい海洋生物が、実はこれまで人類が遭遇したことがない物質を生産していること、それらの多くが医薬のリード化合物として有望であることを理解する。また、それら化合物の構造決定方について理解する。

【授業概要】 生薬、漢方薬を始めとする伝承薬は、数千年にわたる人間の生活から生まれたもので、主として陸上動植物を利用している。一方、海洋生物と人類との関わりはわずか数十年であり、海洋生物が医薬として用いられた例は皆無とあって良い。この授業では海洋生物の代謝物について講義し、それらがどのような薬理活性を持ちどのような薬として利用される可能性があるかについて説明する。あわせてそれら化合物の構造決定に有効な 2D-NMR など最新の機器分析法について説明する。

【履修上の注意】 初歩的な有機化学と器機分析の基礎を理解しておく必要がある。e-learning は行わない

【授業計画】

1. 海洋天然物化学の歴史
2. 海洋生物の分類
3. 海洋生物の代謝産物を化合物群に分ける
4. 海藻から得られる薬理活性化合物
5. 海洋軟体動物が生産する薬理活性化合物
6. フグ毒テトロドトキシンについて
7. 微細藻が生産する猛毒シガトキシンなど
8. 水圏生物の間で取り交わされる情報物質-I-
9. 水圏生物の間で取り交わされる情報物質-II-
10. 複雑な海洋天然物の構造決定について-最新の NMR-
11. 複雑な海洋天然物の構造決定について-絶対配置とは-
12. 複雑な海洋天然物の構造決定について-X 解析-
13. 医薬リード化合物としての海洋天然物-I-
14. 医薬リード化合物としての海洋天然物-II-
15. 医薬リード化合物としての海洋天然物-III-

【成績評価】 出席状況と小テストまたはレポート等により評価する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=182858>

【連絡先】

⇒ 大井 (088-633-7289, tooi@ph.tokushima-u.ac.jp) MAIL

【備考】 平成 22 年度前期開講

環境生物学特論

2 単位 毎年 (前期)

Special Lecture for Medicinal Biotechnology

伊藤 孝司 (授業責任者)・教授 / 創薬科学専攻, 非常勤講師

【授業目的】 ポストゲノム時代における生命科学を基盤とした疾患の治療薬開発のための、新しいアプローチを紹介し、21世紀の創薬を担う研究者の視点を養うことを目的とする。

【授業概要】 ヒトゲノム DNA の全塩基配列の解読が完了し、ゲノム情報を利用して、ファンクショナルゲノミクス、プロテオミクス、グライコミクス、メタボロミクスなどの新しい生命科学分野が発展している。本講義では、疾患の発症・進展メカニズムの研究について解説するとともに、ゲノム創薬をはじめ、細胞工学、抗体工学、RNA 工学、糖鎖工学、再生工学などの先端技術による医薬品および治療法開発への応用に関するトピックスを講述する。

【履修上の注意】 毎週月曜日第 6 講時 (18:15~ 19:45) に講義を行う。該当日に出席できない場合はレポート提出等で出席を考慮する。

【授業計画】

1. 授業ガイダンス+環境生物学序論 (担当者: 伊藤 孝司)
2. 糖鎖生物学と疾患 1 (担当者: 伊藤 孝司)
3. 糖鎖生物学と疾患 2 (担当者: 外部講師)
4. グライコミクスとその応用 1 (担当者: 外部講師)
5. グライコミクスとその応用 2 (担当者: 外部講師)
6. グライコテクノロジーとその応用 (担当者: 外部講師)
7. ペプチド・タンパク質工学とその応用 (担当者: 外部講師)
8. 脂質生物学と疾患 (担当者: 外部講師)
9. 幹細胞生物学の最近の進歩 (担当者: 伊藤 孝司)
10. 幹細胞生物学と再生治療 (担当者: 外部講師)
11. 幹細胞工学と再生医療への応用 (担当者: 伊藤 孝司)
12. がんのプロテオミクス (担当者: 伊藤 孝司)
13. がんの生物学と治療 (担当者: 外部講師)
14. 抗がん剤開発の現状 (担当者: 外部講師)
15. 組換え医薬品開発と現状 (担当者: 外部講師)

【成績評価】 出席状況とレポートにより評価する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=182859>

【連絡先】

⇒ 伊藤 (薬科学教育部附属医薬創製教育研究センター 2 階・創薬生命工学分野教授室, 088-633-7290, kitoh@ph.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 特に指定しない。質問等はメールで受け付け、必要があれば伊藤(担当責任者)が面談する。)

【備考】

- ◇ 平成 22 年度前期開講
- ◇ 随時講義資料としてプリントを配布する。

薬物応答制御学特論**Theory of Controlled Medication Response**

2 単位 毎年 (後期)

武市 陽一郎 (授業責任者)・非常勤講師 / 薬科学教育部, 永山 績夫・非常勤講師 / 薬科学教育部
岡 俊範・非常勤講師 / 薬科学教育部

【授業目的】 薬剤応答性解析は薬の効く人, 効かない人, 副作用の出る人, 出ない人を薬剤投与前に見極め, 患者のための治療を進めようという近年の概念である. その基礎的概念と必要性について講述する. また最近の解析技術の急速な進歩とその技術を用いた制御の例について講述する.

【授業概要】 学部の薬物動態学の基礎概念を受講者が保持していることを前提として, FDA の Guidance, 最近の学会, 文献発表例を示し, 講述する. また, 薬剤応答を規定する因子の抽出方法, その因子を用いた制御の例を示し, 講述する.

【履修上の注意】 特になし

【授業計画】

1. 授業ガイダンス+薬物応答制御学序論 (担当者: 武市 陽一郎)
2. バイオマーカーについて (担当者: 永山 績夫)
3. 薬物の生体内曝露を規定するバイオマーカー I (担当者: 永山 績夫)
4. 薬物の生体内曝露を規定するバイオマーカー II (担当者: 永山 績夫)
5. 薬物の感受性を規定するバイオマーカー (担当者: 永山 績夫)
6. フッ化ピリミジン系抗癌剤について (担当者: 永山 績夫)
7. フッ化ピリミジン系抗癌剤における薬剤応答性解析 (担当者: 永山 績夫)
8. バイオマーカーに関する最近のトピック (担当者: 永山 績夫)
9. 企業のテラーメイド医療への取り組み (担当者: 岡 俊範)
10. Pharmacogenomics と FDA ガイダンス (担当者: 岡 俊範)
11. バイオインフォマティクスの基礎 (担当者: 岡 俊範)
12. Pharmacogenomics 研究のための新しい解析技術 (担当者: 岡 俊範)
13. 遺伝子発現解析による薬物応答規定因子の探索と応用 (担当者: 岡 俊範)
14. 蛋白発現解析による薬物応答規定因子の探索と応用 (担当者: 岡 俊範)
15. 遺伝子多型解析による薬物応答規定因子の探索と応用 (担当者: 岡 俊範)

【成績評価】 出席状況と小テストまたはレポート等により評価する.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=182874>

【連絡先】

⇒ 武市 . (オフィスアワー: 特に設定しません, e-mail にていずれかの教員に問い合わせして下さい. その都度, 時間調整と面談場所を設定します .)

【備考】

- ◇ 平成 22 年度後期開講
- ◇ 随時プリントを配付

臨床薬理学特論**Clinical Pharmacology**

2 単位 毎年 (前期)

滝口 祥令 (授業責任者)・教授 / 医療生命薬学専攻, 山崎 尚志・准教授 / 医療生命薬学専攻

【授業目的】 個々の患者に対する安全で有効な合理的薬物治療を支援し、医薬品の適正使用を支えるために必要な実践的知識を身につける。

【授業概要】 医薬品開発および医薬品の適正使用に役立つ薬剤の有効性と安全性の予測評価理論と、薬効変動に影響を及ぼす生体側因子を考慮した医薬品適正使用へのアプローチについて、その考え方と応用を解説する。

【履修上の注意】 e-learning 化していない

【授業計画】

1. PK パラメーターの活用法 (1) (担当者: 滝口祥令)
2. PK パラメーターの活用法 (2) (担当者: 滝口祥令)
3. PK/PD モデルによる薬効予測 (1) (担当者: 滝口祥令)
4. PK/PD モデルによる薬効予測 (2) (担当者: 滝口祥令)
5. アニマルスケールアップ法による薬効予測 (1) (担当者: 滝口祥令)
6. アニマルスケールアップ法による薬効予測 (2) (担当者: 滝口祥令)
7. 時間薬物治療学と個別化治療 (担当者: 滝口祥令)
8. 薬理遺伝学と個別化治療 (担当者: 滝口祥令)
9. 薬物療法の EBM 実践 (担当者: 滝口祥令)
10. 臨床試験プロトコール作成 (担当者: 滝口祥令)
11. 薬物治療効果を左右する生体因子 (1) 酵素 (担当者: 山崎尚志)
12. 薬物治療効果を左右する生体因子 (2) 受容体 (担当者: 山崎尚志)
13. 薬物治療効果を左右する生体因子 (3) ホルモン (担当者: 山崎尚志)
14. 薬物治療効果を左右する生体因子 (4) 生活習慣 (担当者: 山崎尚志)
15. 薬物治療効果を左右する生体因子 (5) 性差・種差 (担当者: 山崎尚志)

【成績評価】 出席、レポート及び受講態度により総合的に評価する。

【教科書】 資料を配布する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=182865>

【連絡先】

- ⇒ 滝口 (088-633-7466, takiguti@ph.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 講義開講日の12:00-13:00)
- ⇒ 山崎 (088-633-9516, yamazaki@ph.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 講義開講日の12:00-13:00)

【備考】 平成 22 年度開講予定

医薬品情報学特論**Drug Informatics**

2 単位 毎年 (前期)

山内 あい子 (授業責任者) ・准教授 / 医療生命薬学専攻

【授業目的】 医薬品の創製、適正使用、および育薬の各過程において極めて重要な意味を持つ「医薬品情報」について全般的に理解し、医薬品情報のスペシャリストとして薬剤師や医薬情報担当者などの業務に活用することのできる知識と技能を養うとともに、医薬品情報学の将来展望についても考える。

【授業概要】 医薬品はその開発研究から市販後の適正使用に至るまで「情報の化身」であり、適正な医療を進めるためには広範な「医薬品情報」を理解することが重要である。このために、医療制度や新薬承認制度に基づいた医薬品開発情報、医薬品の安全性確保のための対策、医薬品適正使用のための種々安全性情報に関する最新知識、医薬品に関連する臨床情報の収集、解析・評価、加工、提供、および情報管理のため方法論を講述するとともに、臨床薬剤師によるファーマシューティカル・ケアの実際について解説する。さらに、これからの医薬品情報学が目指すべき方向についても、共に考えたい。

【履修上の注意】 演習を含みますので出席を毎回取ります。

【授業計画】

1. 医薬品情報学とは
2. 医薬品の開発から市販後までの薬事情報 (1)
3. 医薬品の開発から市販後までの薬事情報 (2)
4. 医薬品の開発から市販後までの薬事情報 (3)
5. 医薬品適正使用と医薬品情報 (1)
6. 医薬品適正使用と医薬品情報 (2)
7. 医薬品安全性情報 (1)-副作用の早期発見をめざして
8. 医薬品安全性情報 (2)-副作用の早期発見をめざして
9. 医薬品安全性情報 (3)-妊娠・授乳期の医薬品情報
10. 薬物相互作用情報 (1)
11. 薬物相互作用情報 (2)
12. 薬剤師と DI 業務
13. ファーマシューティカル・ケアの実際
14. これからの医薬品情報学と情報科学
15. 試験

【成績評価】 出席状況、レポート、および試験等により評価します。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=182855>

【連絡先】

⇒ 山内 (088-633-7266, aiko@ph.tokushima-u.ac.jp) **MAIL** (オフィスアワー: 随時)

【備考】

- ◇ 講義資料は適宜配布し、参考図書も必要に応じて紹介します。
- ◇ 平成 21 年度前期開講

薬剤学特論

2 単位 毎年 (後期)

Advanced Biopharmaceutics

際田 弘志・教授 / 医療生命薬学専攻, 石田 竜弘・准教授 / 医療生命薬学専攻

【授業目的】 薬物の有効性・安全性を論じる上で、薬物の体内動態を理解することは極めて重要である。薬剤学は、その解析、評価、さらにはその制御までを考究する学問分野である。本講は学部時代に学んだ薬物動態学の基礎的事項に基づいて、さらに実際の応用に即応した知識や情報を修得する。

【授業概要】 薬物動態学の応用面として、医薬品開発における代謝研究 (薬物代謝学)、およびその定量的評価法の開発 (生理学的薬物速度論)、臨床現場における血中濃度の経時データの取り扱い (臨床薬物速度論)、さらにより高い安全性と有効性を追求する DDS 開発 (薬物送達学) の 4 分野について講義する。

【履修上の注意】 e-learning には対応していないので毎回出席する必要がある。

【授業計画】

- 1~4. 薬物代謝学 / 吸収・分派・代謝・排泄という薬物動態の中でも特に代謝は薬物の有効性・安全性に大きく関わっている。ここでは代謝の様式、代謝酵素、代謝誘導、薬物相互作用など医薬品を開発する上で重要となる代謝に関する事項を解説する。(担当者: 際田 弘志)
- 5~7. 生理学的薬物速度論 / 主にウエルスタッドモデルにしたがって、肝臓器クリアランスと固有クリアランスとの関係、またこの理論に基づいてアベイラビリティや抽出率の算出および血中濃度シミュレーションの技法を解説する。(担当者: 際田 弘志)
- 8~11. 臨床薬物速度論 / TDM を始めとして、臨床現場での薬物速度論の有用性は極めて高い。ここでは、実際のデータに即して血中濃度データを解析する場合に有用となる理論的な裏付けを講義するとともに、演習形式で練習問題を解き、より深い理解を促す。(担当者: 石田 竜弘)
- 12~15. 薬物送達学 / DDS の概念と分類及びその有用性、動態制御のストラテジー、ターゲティングの意義とその方法論などを解説するとともに、開発の現状と問題点についても解説する。さらにリポソームを例に最新の研究状況の紹介も行う。(担当者: 石田 竜弘)

【成績評価】 出席状況と小テストまたはレポートにより評価する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=182866>

【連絡先】

- ⇒ 際田 (088-633-7259, hkiwada@ph.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 随時(要, メールでのアポ))
- ⇒ 石田 (088-633-7260, ishida@ph.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 随時(要, メールでのアポ))

【備考】

- ◇ 教科書は使用しない。随時プリント等を配布
- ◇ 平成 21 年度後期開講

薬物代謝学特論**Drug Metabolism and Therapeutics**

2 単位 毎年 (前期)

荒木 勉 (授業責任者) ・教授 / 医療生命薬学専攻

【授業目的】 脳の構造及び神経変性疾患を中心とした病態と発症機序を理解させる。次いで、薬剤による治療の限界及び薬物代謝の問題点等についての知識を修得することを目標とする。

【授業概要】 学部における知識を基礎にして、病態に関する知識を修得する。基礎理論から最新の話題までの医療現場の現状を概説後、課題研究を与える。

【履修上の注意】 講義中に、理解度を把握する為に、小テストを実施する場合があります。

出席、課題テーマのレポートを重視します。

【授業計画】

1. 脳の構造 (1) 中枢機能の概論
2. 脳の構造 (2) 脳血管の役割
3. 脳の構造 (3) 脳諸部位の役割における相違
4. 脳の病態 (1) 水頭症の発生機序
5. 脳の病態 (2) パーキンソン病の病態生理
6. 脳の病態 (3) パーキンソン病に対する薬物治療
7. 脳の病態 (4) 虚血性脳疾患の病態生理
8. 脳の病態 (5) 虚血性脳疾患の薬物療法
9. 脳の病態 (6) 脳動脈瘤の発生機序
10. 脳の病態 (7) 脳腫瘍の発生機序
11. 脳の病態 (8) 高血圧と脳血管障害
12. 睡眠時無呼吸症候群 / 脳組織に与える影響
13. 加齢黄斑変性症 / 失明原因に関する対応
14. 総合討論 課題を出します
15. 総復讐
16. 定期試験

【成績評価】 出席、受講態度、レポート及び試験で評価します。再試験 予定無。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=182872>

【連絡先】

⇒ 荒木 (病態神経薬学分野, 088-633-7277, tsuaraki@ph.tokushima-u.ac.jp)

MAIL (オフィスアワー: 毎週金曜日12-13時 5階 薬効解析学分野)

【備考】

- ◇ 平成 22 年度前期開講
- ◇ 講義資料は適宜配布し、参考図書も必要に応じて紹介します。

臨床薬剤学特論

2 単位 毎年 (前期)

Pharmaceutical Health Care and Science

水口 和生(授業責任者)・教授 / 医療生命薬学専攻, 荒木 博陽・肩書 / 愛媛大学, 芳地 一・肩書

齋藤 晴比古・肩書 / 徳島通信病院, 川添 和義・准教授 / 医療生命薬学専攻, 村雲 儀廣・肩書 / 徳島県業務課

【授業目的】 臨床現場で活躍する指導的薬剤師, 特に「薬のスペシャリスト」として必要な知識を身につける。

【授業概要】 学部教育で行わない, 医療機関での医薬品に関するマネジメントの実際, 医療経営, リスク管理等, 臨床現場での薬剤管理者として必要な講義を行う。

【履修上の注意】 e-learning については検討中である。

【授業計画】

1. 授業ガイダンス (担当者: 水口 和生)
2. 医療用医薬品をとりまく問題点と今後の展望 (担当者: 川添 和義)
3. 保険制度と医療経営 (担当者: 水口 和生)
4. 病院における安全管理と感染対策 (担当者: 水口 和生)
5. EBM と専門薬剤師 (担当者: 川添 和義)
6. 病院の IT 化 (担当者: 西岡 豊)
7. 治験審査委員会と治験の実際 (担当者: 水口 和生)
8. 最近の薬物療法 I (担当者: 齋藤 晴比古)
9. 最近の薬物療法 II (担当者: 荒木 博陽)
10. 最近の薬物療法 III (担当者: 芳地 一)
11. 輸液の使い方 (担当者: 水口 和生)
12. 医療用漢方と使用の実際 I (担当者: 川添 和義)
13. 医療用漢方と使用の実際 II (担当者: 川添 和義)
14. GMP の実際 (担当者: 村雲 儀廣)
15. 臨床現場における研究の事例 (担当者: 川添 和義)

【成績評価】 出席状況とレポートにより評価する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=182863>

【連絡先】

⇒ 水口 (088-633-7212, minakuti@clin.med.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 月曜日の9:00~ 11:00, 川添和義:e-mail により適宜時間調節します。)

【備考】

- ◇ 随時プリント等を配付
- ◇ 平成 21 年度後期開講

臨床病態学特論

2 単位 毎年 (後期)

Selective lecture of Clinical Physiology

前田 健一(授業責任者)・教授 / 医療生命薬学専攻, 井崎 ゆみ子・准教授 / 保健管理センター

【授業目的】 疾病の医学的基礎知識を習得することより、総合的な観点から診療に参加する能力を身につける。

【授業概要】 呼吸器, アレルギー疾患および精神神経疾患について講義する。

【履修上の注意】 e-learning 化はしていない

【授業計画】

1. 呼吸器の生理学 (担当者: 前田 健一)
2. 精神医学総論, メンタルヘルス (担当者: 井崎 ゆみ子)
3. アレルギーの病態生理 (担当者: 前田 健一)
4. 認知症 (担当者: 井崎 ゆみ子)
5. 気管支喘息 (担当者: 前田 健一)
6. 精神作用物質使用による精神の障害 (担当者: 井崎 ゆみ子)
7. カゼ・インフルエンザ (担当者: 前田 健一)
8. 統合失調症 (担当者: 井崎 ゆみ子)
9. 肺炎・結核 (担当者: 前田 健一)
10. 気分障害 (担当者: 井崎 ゆみ子)
11. 肺癌 (担当者: 前田 健一)
12. 神経症性障害 (担当者: 井崎 ゆみ子)
13. 喫煙の影響 (担当者: 前田 健一)
14. 児童思春期の精神障害 (担当者: 井崎 ゆみ子)
15. 慢性閉塞性呼吸器疾患 (担当者: 前田 健一)

【成績評価】 出席状況とテストにより評価する

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=182862>

【連絡先】

⇒ 前田 (maedak@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: e-mailにて時間調節の上, 面談してください。)

【備考】

- ◇ 随時プリントを配布
- ◇ 平成 21 年度後期開講

薬物学特論

2 単位 毎年 (前期)

advanced class of pharmacology

福井 裕行(授業責任者)・教授/医療生命薬学専攻, 水口 博之・准教授/医療生命薬学専攻

【授業目的】 多因子疾患治療, 疾患感受性遺伝子, テイラーメイド医療について, 分子薬理学を基礎にして理解することを目的とする.

【授業概要】 多因子疾患克服は現代医学の重要課題である. 多因子疾患の症状発現には種々のシグナルネットワークが関与するが, その中から疾患感受性遺伝子の同定とその機構を標的とする治療薬の開発を如何にするかについて研究が進められている. また, 個々の病理機構の違いからテーラーメイド医療が必要とされる. 本授業ではこれらの問題点についてアレルギー疾患を材料に授業を行う.

【履修上の注意】 多因子疾患についての予備知識を貯えておくこと

【授業計画】

1. 7月17日 多因子疾患について (担当者: 福井)
2. 7月17日 疾患関連遺伝子 (担当者: 福井)
3. 7月18日 遺伝子発現機構 (担当者: 水口 博)
4. 7月18日 遺伝子発現の抑制 (担当者: 水口 博)
5. 7月24日 疾患感受性遺伝子 (担当者: 福井)
6. 7月24日 薬物と遺伝子発現抑制 (担当者: 福井)
7. 7月25日 レポート作成
8. 7月25日 レポート作成

【成績評価】 レポートにより評価する.

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=182873>

【連絡先】

- ⇒ 福井 (hfukui@ph.tokushima-u.ac.jp) **MAIL** (オフィスアワー: 随時, 薬学部研究棟3階東に訪問して下さい. 又は, 上記メールで受け付けます.)
- ⇒ 水口 (088-633-7264, guchi003@ph.tokushima-u.ac.jp) **MAIL** (オフィスアワー: 随時, 薬学部研究棟3階東に訪問して下さい. 又は, 上記メールで受け付けます.)

【備考】

- ◇ 7月17, 18日 (金, 土), 24, 25日 (金, 土)
- ◇ 最終日 (7月25日, 土曜日), レポート作成予定
- ◇ 平成 21 年度前期開講

薬学生化学特論

Advanced Pharmaceutical Biochemistry

2 単位 毎年 (前期)

土屋 浩一郎 (授業責任者)・教授 / 医療生命薬学専攻

【授業目的】 生化学的側面から病態を理解するとともに、医薬品が生体内高分子と相互作用することで薬理作用を発揮するしくみを理解する。

【授業概要】 病気を細胞レベルや分子レベルで生化学的な視点から観察することで、病態と糖質・脂質・蛋白質との関連が近年明らかにされつつある。そしてこれらの知識を活用することにより、病気の発症過程に基づきターゲット分子を選択し、特異的な薬剤の開発が行われつつある。

薬学生化学特論では、代表的な疾患における生体高分子の変化をとりあげ、それらに対する検出法ならびに医薬品による新しい治療法や、医薬品開発へのアプローチ等を講述する。

【キーワード】 生活習慣病発症メカニズムの解明

【履修上の注意】 教科書は使用せずに、その都度資料を配布して講義を行います。

【授業計画】

1. がんの生化学 1 / 細胞障害性抗がん剤
2. がんの生化学 2 / 細胞障害性抗がん剤
3. がんの生化学 3 / 細胞障害性抗がん剤
4. がんの生化学 4 / 分子標的薬
5. がんの生化学 5 / 分子標的薬
6. がんの生化学 6 / 分子標的薬
7. 遺伝病の生化学
8. 遺伝病の生化学
9. 新規糖尿病治療薬と生化学 1
10. 新規糖尿病治療薬と生化学 2
11. 肥満の生化学 1
12. 肥満の生化学 2
13. 痴呆と生化学
14. 遺伝子診断
15. 遺伝子治療
16. レポート提出

【成績評価】 レポート

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=182871>

【連絡先】

⇒ 土屋 (薬物機能制御学講座, 088-633-7250, tsuchiya@ph.tokushima-u.ac.jp)
p) MAIL (オフィスアワー: 随時(メール連絡にて確認必要)医薬品機能解析学授室)

【備考】 平成 22 年度前期開講

微生物薬品化学特論

Chemotherapy

2 単位 毎年 (前期)

新垣 尚捷・准教授 / 医療生命薬学専攻

【授業目的】 代表的な感染症を理解するため、病原微生物に関する専門的知識と薬剤に対する耐性獲得の機序を理解するとともに、新規の抗菌抗ウイルス剤の開発に関する戦略を修得する。

【授業概要】 代表的な感染症を引き起こす病原微生物について、特徴・病原因子・疾患に関する概説、薬剤に対する耐性獲得の機序及び新規の抗菌抗ウイルス剤の開発に関する戦略に関する概説。

【履修上の注意】 本講義は、教官がまず各項目について講義をするとともに、テーマを各受講者に与え、調査内容にて発表するセミナー形式で行う。

【授業計画】

1. 主な DNA ウイルスが引き起こす代表的な疾患と治療薬について概説。
2. 主な RNA ウイルスが引き起こす代表的な疾患と治療薬について概説。
3. レトロウイルスが引き起こす疾患と治療薬について概説。
4. グラム陽性球菌の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患と治療薬について概説。
5. グラム陰性球菌の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患と治療薬の概説。
6. グラム陽性桿菌の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患と治療薬について概説。
7. グラム陰性桿菌の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患および治療薬の概説。
8. グラム陰性スピリルム属病原菌の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患及び治療薬について概説。
9. 抗酸菌の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患及び治療薬について概説。
10. スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアの微生物学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患と治療薬について概説。
11. 真菌 (アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ) の微生物学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患及び治療薬について概説。
12. プリオン感染症の病原体の特徴と発症機序について概説。
13. 新興感染症を引き起こす病原体 (SARS, エボラウイルス, 鳥インフルエンザウイルス) が引き起こす病態
14. 薬剤耐性機序の概説。
15. 新規の抗菌抗ウイルス剤の開発に関する戦略

【成績評価】 発表内容、レポートについて採点し、本試験とともに総合判定する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=182856>

【連絡先】

⇒ 新垣 (088-633-7255, arakaki@ph.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: 水曜日の12時から13時)

【備考】 平成 22 年度前期開講

衛生化学特論

Pharmaceutical Health Chemistry

2 単位 毎年 (後期)

徳村 彰 (授業責任者)・教授 / 医療生命薬学専攻, 田中 保・准教授 / 医療生命薬学専攻

【授業目的】 衛生薬学分野で最近注目を集めている話題として, 1) 酸化ストレスが生体におよぼす障害と, 2) 生体内におけるリン脂質の役割の二つを採りあげ, 概説する.

【授業概要】 酸化ストレスと関連疾患, 活性酸素によるリン脂質の酸化変性と疾患との係り, リン脂質の構造と機能およびその代謝異常と疾患との関連などについて, 基礎から最新の研究にわたる内容を, 生化学, 分子生物学, 病態生理学など様々な視点から講義する.

【履修上の注意】 後日, 講義の日程と場所を通知します.

【授業計画】

1. 授業ガイダンス
2. 生体内での活性酸素発生機構
3. 酸化ストレスによる細胞傷害と抗酸化性因子によるその防御
4. 生体膜やリポタンパクリン脂質の酸化変性
5. 生体膜脂質の構造と機能-1
6. 生体膜脂質の構造と機能-2
7. 脂質代謝異常と生活習慣病-1
8. 脂質代謝異常と生活習慣病-2
9. 脂質メディエーターの構造と機能-1
10. 脂質メディエーターの構造と機能-2
11. 脂質メディエーターの構造と機能-3
12. 細胞内シグナル伝達に關与する脂質やその代謝物-1
13. 細胞内シグナル伝達に關与する脂質やその代謝物-2
14. 脂質の疾患バイオマーカーとしての役割-1
15. 脂質の疾患バイオマーカーとしての役割-2
16. 総復習

【成績評価】 出席, レポート及び受講態度を総合して評価します. (再試験) なし

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=182875>

【備考】

- ◇ 講義時に資料を配布し, 参考書を紹介します.
- ◇ 平成 21 年度後期開講

生物薬品化学特論**Medicinal Biochemistry**

2 単位 毎年 (前期)

篠原 康雄 (授業責任者) ・教授 / 医療生命薬学専攻

【授業目的】 生体の機能発現の分子論についての理解を深めることによって、医薬品の活性発現機構を分子レベルで理解する。

【授業概要】 生体の機能発現のメカニズムを理解するためには、個体レベル、細胞やオルガネラレベル、タンパク質や分子レベルなど、異なるスケールでの研究が重要になる。本講義ではそれぞれのスケールでの研究事例を紹介し、生体の機能発現の分子論についての理解を深めることをめざす。また、医薬品の活性発現機構について、生体の機能との関連で理解を深める。

【授業計画】

1. 遺伝子発現解析法の概論
2. マイクロアレイ解析の現状と課題
3. 遺伝子発現規格化の現状と世界的動向
4. 遺伝子発現を用いた疾病診断の可能性
5. 膜とペプチドの相互作用の概論
6. ペプチドの膜透過
7. 人工的な膜タンパク質構築の可能性
8. 膜タンパク質の folding
9. DNA の構造のダイナミクス
10. DNA の動的構造と遺伝子発現の制御
11. ミトコンドリア学概論
12. ミトコンドリアによる細胞死の制御
13. 医薬品の作用機構 (1)
14. 医薬品の作用機構 (2)
15. レポート作成 (1)
16. レポート作成 (2)

【成績評価】 講義内容に関するレポートにより評価する

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=182860>

【連絡先】

⇒ 疾患ゲノム研究センター215号室

【備考】 平成 22 年度開講予定

薬科学教育部 (博士前期)

● 全専攻系共通カリキュラム科目

生命倫理入門 ... 山野・板倉・太田・北村・久保・佐野・寺尾・中條・水口・松本/1年(後期).....	4
臨床心理学 ... 佐藤・山本・境・三留/1年(前期).....	5
社会医学・疫学・医学統計入門 ... 有澤・伊藤・上野・上村・木原・谷岡・徳村・日野出・森口・楊河/1年(後期).....	6
英語論文作成入門 ... 市原・富田・梶・林・福井・中屋・岡崎・樋口・長篠・片岡/1年(後期).....	7
心身健康と環境ストレス ... 武田.....	8
生命科学の研究手法 ... 羽地.....	9

● 各専攻系間の共通カリキュラム科目

臨床薬理学入門 ... 玉置・滝口・際田・土屋・山内・富田/毎年(後期).....	10
ゲノム創薬特論 ... 伊藤・板倉・玉置・佐野/毎年(前期).....	11
健康食品・漢方 ... 高石・寺尾・武田/毎年(後期).....	12

● 専門科目

薬品物理化学特論 ... 中馬/隔年(後期).....	13
製剤学特論 ... 植野/隔年(前期).....	14
薬品分析学特論 ... 田中・竹内/隔年(前期).....	15
薬化学特論 ... 佐野/隔年(後期).....	16
薬品合成化学特論 ... 大高・根本/隔年(前期).....	17
薬品製造化学特論 ... 落合・宮本/隔年(後期).....	18
生薬学特論 ... 高石・柏田/隔年(後期).....	19
植物環境資源学特論 ... 宍戸・吉田・非常勤講師/隔年(前期).....	20
海洋環境資源学特論 ... 大井/隔年(前期).....	21
環境生物工学特論 ... 伊藤・非常勤講師/隔年(前期).....	22
薬物応答制御学特論 ... 武市・永山・岡/隔年(後期).....	23
臨床薬理学特論 ... 滝口・山崎/隔年(前期).....	24
医薬品情報学特論 ... 山内/隔年(前期).....	25
製剤学特論 ... 際田・石田/隔年(後期).....	26
薬物代謝学特論 ... 荒木/隔年(前期).....	27
臨床製剤学特論 ... 水口・荒木・芳地・齋藤・川添・村雲/隔年(後期).....	28

臨床病態学特論 ... 前田・井崎/隔年(後期).....	29
薬物学特論 ... 福井・水口/隔年(前期).....	30
薬学生化学特論 ... 土屋/隔年(前期).....	31
微生物薬品化学特論 ... 新垣/隔年(前期).....	32
衛生化学特論 ... 徳村・田中/隔年(後期).....	33
生物薬品化学特論 ... 篠原/隔年(前期).....	34
臨床薬学実習 1 ... 学務委員会・臨床薬学実習運営委員会/2年(前期, 後期).....	35
臨床薬学実習 2 ... 学務委員会・臨床薬学実習運営委員会/1年(前期).....	36

薬科学教育部 (博士後期)

● 全専攻系共通カリキュラム科目

生命倫理入門 ... 山野・板倉・太田・北村・久保・佐野・寺尾・中條・水口・松本/1年(後期).....	39
臨床心理学 ... 佐藤・山本・境・三留/1年(前期).....	40
社会医学・疫学・医学統計入門 ... 有澤・伊藤・上野・上村・木原・谷岡・徳村・日野出・森口・楊河/1年(後期).....	41
英語論文作成入門 ... 市原・富田・梶・林・福井・中屋・岡崎・樋口・長篠・片岡/1年(後期).....	42
心身健康と環境ストレス ... 武田.....	43
生命科学の研究手法 ... 羽地.....	44

● 各専攻系間の共通カリキュラム科目

臨床薬理学入門 ... 玉置・滝口・際田・土屋・山内・富田/毎年(後期).....	45
ゲノム創薬特論 ... 伊藤・板倉・玉置・佐野/毎年(前期).....	46
健康食品・漢方 ... 高石・寺尾・武田/毎年(後期).....	47

● 専門科目

薬品物理化学特論 ... 中馬/毎年(後期).....	48
製剤学特論 ... 植野/毎年(前期).....	49
薬品分析学特論 ... 田中・竹内/毎年(前期).....	50
薬化学特論 ... 佐野/毎年(後期).....	51
薬品合成化学特論 ... 大高・根本/毎年(後期).....	52
薬品製造化学特論 ... 落合・宮本/毎年(後期).....	53

生薬学特論 ... 高石・柏田/毎年(前期).....	54
植物環境資源学特論 ... 宍戸・吉田・非常勤講師/毎年(前期).....	55
海洋環境資源学特論 ... 大井/毎年(前期).....	56
環境生物工学特論 ... 伊藤・非常勤講師/毎年(前期).....	57
薬物応答制御学特論 ... 武市・永山・岡/毎年(後期).....	58
臨床薬理学特論 ... 滝口・山崎/毎年(前期).....	59
医薬品情報学特論 ... 山内/毎年(前期).....	60
薬剤学特論 ... 際田・石田/毎年(後期).....	61
薬物代謝学特論 ... 荒木/毎年(前期).....	62
臨床薬剤学特論 ... 水口・荒木・芳地・齋藤・川添・村雲/毎年(前期).....	63
臨床病態学特論 ... 前田・井崎/毎年(後期).....	64
薬物学特論 ... 福井・水口/毎年(前期).....	65
薬学生化学特論 ... 土屋/毎年(前期).....	66
微生物薬品化学特論 ... 新垣/毎年(前期).....	67
衛生化学特論 ... 徳村・田中/毎年(後期).....	68
生物薬品化学特論 ... 篠原/毎年(前期).....	69